亥八月二十五日開

平成万句合惣句高一万二千九百拾三員

壷壱

二十七まひ板行

課題「太陽」

脇屋川柳・斎藤大雄
大野風柳・礒野いさむ
尾藤三柳・大川幸太郎

合評

最優秀賞

おひさまの下で乾かす世界地図　五千参百八拾九員　栄　連　梅田　幸恵

優秀賞

にんげんの事で悩んでいる夕陽　壱千五百拾九員　新葉連　藤原　鬼桜
太陽と親友になる車椅子　栄　連　高橋里江子
太陽と鬼ごっこする花時計　かっぱ連　島津　昌子

佳作賞

そのうちに太陽からの請求書　弐千三拾九員　ウエブ連　山本　桂馬
二代目の太陽になる嫁が来た　越後連　内藤美紗子
太陽が笑うと森も子も笑う　新葉連　馬場ゆうこ
太陽を一個包んだシャボン玉　新葉連　橋立　英樹
日が出たら笑い上戸に戻ります　青葉連　渡邊　とり

三点句

太陽は休耕田にも陽を当てる　栄　連　油谷　克己
楢山を真っ赤に染めている夕陽　栄　連　今井　旺波
職退いて知る太陽の美しさ　栄　連　上村　脩
太陽とゆっくり歩く万歩計　栄　連　竹重　満夫
千枚田千の太陽泳がせる　栄　連　石田　一郎
太陽が地球に当てる聴診器　新葉連　成島　静枝
どの田にも太陽がある千枚田　新葉連　桜井　閑山
太陽にいろんな色をもらってる　ウエブ連　竹重　満夫
金があるうちは太陽だった人　ウエブ連　恵良　正巳
古本屋忘れた太陽と出逢う　越後連　伊藤　美幸
太陽が恥ずかしそうに水着焼く　かっぱ連　椎橋　重雄
陽を浴びて森は童話を語り出す　青葉連　あきたじゅん

二点句

アルバムに太陽だった頃の妻　ウエブ連　山本　桂馬
マニキュアと爪の間のホントの光　ウエブ連　七色　風月

寅弐

太陽と地球の距離は神の距離　ウェブ連　紫敷　布団
出し惜しみしない太陽すてきだな　ウェブ連　勘句郎
指きりが夕日に染まっている内緒　ウェブ連　藤森いさお
お日様とみな仲がいい長寿村河合　ウェブ連　河合　成近
絵手紙の太陽すこし楕円形　ウェブ連　川上　桃流
頑張れよ頑張ろうよと陽は昇る　ウェブ連　江戸川散歩
一生を太陽系で終りそう　ウェブ連　光畑　迷留
太陽を盗んで隠す場所がない　ウェブ連　光畑　迷留
太陽が大好き天も地も人も　ウェブ連　柳田　香
太陽のリズムで熟れていくトマト　ウェブ連　堀　まさか
お日様が無駄にはしない野良の汗　ウェブ連　竹重　満風
半欠けの太陽でいい夜勤明け岸　ウェブ連　保宏　四季
太陽と握手しながら農を継ぐ　ウェブ連　吉川　ひよ
沈む陽を呼び戻したい嬉しい日　ウェブ連　加藤　松美
太陽を拝むと性善説になる　ウェブ連　池田クジラ
太陽を浴びるとやる気出てきます　ウェブ連　浅原　幸子
太陽を抱きしめられる秋の海　ウェブ連　河合　克徳
嘘言わぬ太陽が好き汗が好き　ウェブ連　佐藤　憲夫
太陽が苦手になって人の秋　ウェブ連　園橋軒太郎
太陽に恥じ入ることが多過ぎる　ウェブ連　蛙屋　柳斎
うなずいてくれた夕陽を持ち歩く　ウェブ連　南野　耕平
太陽を浴びて細胞良くしゃべる　ウェブ連　ボケサンゴ
ナース室から洩れている陽のひかり　ウェブ連　岡山　雅一
太陽に散骨の許可問うてみる　越後連　武田　笠子
太陽へ指で書いてる願い事　越後連　佐々木八寿
太陽に背き大きな頬っ被り　越後連　梨本　輝子
ボクの首日光消毒しています　越後連　橋本　祐子
太陽の消費期限も気にかかる　かっぱ連　石村まさ子
太陽に吼えろ年金にも吼えろ　かっぱ連　阿部　祐二
万博の岡本太郎燃え続け　かっぱ連　藤井　未成
太陽が好きな汗ならぼくもかく　栄連　油谷　克己
太陽を大きく書けるまだやれる　栄連　阿部　浩
朝の陽が今は一人の部屋に射す　栄連　新井　清心
お日さまが見ていたなんて忘れてた　栄連　新井　清心
太陽は闇の暗さを知っている　栄連　新井　清心
太陽は面会謝絶の二日酔い　栄連　荒木　勉
路地裏に太陽という店がある　栄連　池谷　勝利
日を拝む東病棟車椅子　栄連　石塚　洋子
お日様がいっぱい里の無人駅　栄連　宇井　久
太陽が好きな貴方を好きになる　栄連　上村　脩

宝参

隔てなく太陽浴びて無一文　内本恵美子 栄連
お日様と二人泣いたり笑ったり　小野塚冨雄 栄連
太陽の恵み千枚田に溢れ　加藤権悟 栄連
退屈が集ってくる日向ぼこ　万年幹事 栄連
太陽をがぶりと食べる自家野菜　後藤洋子 栄連
今日の太陽あの日とおなじだった　小松真一 栄連
何事も御破算にして陽が昇る　笹島一江 栄連
太陽に口答えする反抗期　笹島一江 栄連
身の丈に合った暮しと太陽と　笹島一江 栄連
一日が祈りで終わる陽が沈む　杉山太郎 栄連
日に焼けた顔が微笑む収穫期　高橋宏作 栄連
沈む陽に明日を祈って鍬洗う　野田ヤヌ之 栄連
太陽が覗いてくれた介護窓　堀田光美 栄連
夕張の上で太陽立ち止まる　堀田光美 栄連
太陽に拍手打った農夫婦　堀田光美 栄連
陽は西へ天狗の鼻が低くなる　松田順久 栄連
太陽が無数に見える二日酔い　山田勝見 栄連
落書の子の太陽の懐さ　湯原クロモリ 栄連
耕運機陽を讃えたり憎んだり　吉川一男 栄連
太陽が燃えた八月十五日　米津説男 栄連
行商の母の日焼けは美しい　米津説男 栄連
太陽は悲喜交々を見て沈む　渡邊淳 栄連
今日と言う過去が夕陽に吸い込まれ　渡邊淳 栄連
夕日浴び親子の長いシルエット　渡邊淳 栄連
逢えそうな予感夕日が美しい　渡邊淳 栄連
繃帯の奥まで染みて来た夕陽　渡邊淳 栄連
太陽のちょっと知りたい誕生日　青山はの字 栄連
太陽が虹のケーキを食べちゃった　青木おりべ 栄連
ままごとの絵にお日様もお客様　安藤好美 栄連
空襲の朝の太陽泣いていた　石井榮治 栄連
指切りを太陽とする万歩計　今井旺波 栄連
太陽が呼ぶと素直に花が咲く　岡本かくら 栄連
太陽へ借りをつくらぬように生き　木許正生 栄連
やかましい朝日を睨む月曜日　里高志 栄連
罪一つ抱いて太陽眩しすぎ　新藤孝廣 栄連
太陽も嘆く戦を繰り返す　岳明 栄連
花丸を貰ってばかりいる太陽　高橋里江子 栄連
九条を説いてやんわり陽が沈む　姫野正夫 栄連
ソプラノの歌に太陽躍り出る　南川光男 栄連
太陽の少年を積む父の貨車　宮川芒野 栄連

宝四

太陽がくるっと回る逆上がり　栄連　三好さよ子
太陽を拝む男の祭り好き　栄連　森末　律子
太陽と笑う洗った白いシャツ　栄連　横須賀ポチポチ
太陽と一緒に起きて守る過疎　栄連　岡本かくら
五つ子へ太陽五つの色をくれ　栄連　石田　一郎
太陽と話せる窓を開けておく　栄連　久保田益祥
指切りは太陽とだけするつもり　栄連　沢田百合子
泥んこの手をお日様に褒められる　栄連　野木　尋子
大落暉一村すべて炎え上がる　栄連　みぎわはな

太陽を転がして往くひとり旅　桜木連　尾藤　一泉
太陽が無職のオレを照らしつけ　桜木連　宇都宮福男
太陽を背にケータイを食べている　桜木連　佐藤かつろう
江戸の陽を柳多留から汲んでくる　桜木連　玄　武洞
お茶の間に太陽系の母が居る　桜木連　島崎　穂花
ふるさとに太陽がある母が居る　桜木連　江尻　麦秋
高い高い子を太陽へ近づける　桜木連　江尻　麦秋
天道が好きな男で人気者　桜木連　石井　正俊
太陽に少しニヒルな北の窓　桜木連　野中いち子
陽当たりもいっしょに買った一戸建て　桜木連　嵯峨里かほる
太陽と海の契りを見ましたか　桜木連　高田　淳子
太陽に背を向けガックリ肩落とす　桜木連　小笠原遥香
遮るな　眩しい光泣かせない　桜木連　室岡　泉
日だまりが　ちょとうれしい　冬の道　桜木連　風呂畑任三郎
お日様が大きく見えて冬の道　桜木連　阿部闘句朗
太陽のままで介護を受ける母　桜木連　阿部闘句朗
里の川夕陽へ今日の鍬洗う　新葉連　宮川華余子
太陽に心配かけている地球　新葉連　池田　茂代
日の当る場所に集まる雑魚の群れ　新葉連　浅葉　進
太陽と指切りをしたいのちです　新葉連　上嶋　幸雀
太陽は一つ命もまたひとつ　新葉連　松本とまと
陽焼けした父の見事な顔の皺　新葉連　青木土筆坊
太陽の塔に昭和の切れっ端　新葉連　河内谷　恵
太陽の愛を知ってるこぼれ種　新葉連　吉村　一風
太陽とプラス志向で生きてゆく　新葉連　田辺　進水
太陽の手加減しない夏が好き　新葉連　北村　大成
大落暉話したいことおいたまま　新葉連　吉岡　修
太陽の似合う男に賭けてみる　新葉連　福本　清美
太陽に近付く父の肩車　新葉連　楠部　千鶴
父ですか屋根で夕陽をみています　新葉連　アズスン安須

壱千六百三拾六員

五

背泳ぎの手に太陽が少し触れ　新葉連　橋立　英樹
赤ちゃんの拳の中にある太陽　新葉連　加藤喜代子
太陽が伴走してる救急車　新葉連　神保　弘
太陽に恋文書いている都会　青空連　小倉　利江
太陽を友にも師にもする農夫　青空連　原島　幸男
太陽を六十億の手で洗う　青空連　山川　公二
太陽へみんないい顔しています　青空連　熊谷　岳朗
大落暉明日のプランを組み立てる　青空連　萩原美和子
太陽へ向ける無冠の笑い皺　青空連　椛本　愛子
太陽へ元気印を白く干す　青空連　長尾　美和
太陽と同行二人しています　つくば連　上野　楽生
太陽に目鼻を書けば僕のママ　つくば連　小川賀世子
定年のゆとり両手で陽を掬う　つくば連　坂本香代子
太陽が沸かした風呂は柔らかい　つくば連　佐瀬　貴子
太陽に飲ませてみたい大ジョッキ　中の島連　加茂　鉄也
太陽と一緒に走る通勤車　葛西連　野中　一政
太陽よしっかり見てね格差あり　青葉連　伊東慧美子
落日もおもてなしです日本海　青葉連　小野　正光
お日様と指切りをした遠い夏　青葉連　阿部　峰子
雲間からお日さまのぞく余命表　青葉連　あきたじゅん
太陽に年金手帳透かし見る　青葉連　吉川　留蔵
僕の太陽などと男の蒙古斑　青田連　真弓　明子
太陽はぼくに勇気をくれる色　新堀連　高木　彬裕
閉じた目に太陽がある君のキス　レモンの会連　やまぐち珠美
陽を浴びて第九条が光ってる　レモンの会連　山下　万博
雑草もみな太陽の子になれる　漣　連　三浦　蒼鬼
太陽を無断拝借して走る　漣　連　了味　茶助

一点句（選外佳作）

父さんの背骨を太陽に透かす　ウェブ連　尾藤　一泉
太陽のにおいが好きな洗い物　ウェブ連　モダン川柳
夏至の陽がまっすぐ映る井戸の底　ウェブ連　保岡勘句郎
太陽が笑うと笑う花時計　ウェブ連　藤本　秋声
炎天がこんがり揚げたアブラゼミ　ウェブ連　伊塚　紅白
太陽に　相談したい　温暖化　ウェブ連　椎名多気火
ビー玉が逆さに映す青い空　ウェブ連　保岡勘句郎
太陽へ泣いて別れる雪うさぎ　ウェブ連　菅井　京子
勝つはずのない太陽と鬼ごっこ　ウェブ連　菅井　京子
作柄は良太陽に味方され　ウェブ連　菅井　京子
子が描いた太陽どれもゴッホです　ウェブ連　山本　譚石
太陽に覗かれていた夏の恋　ウェブ連　江戸川散歩
太陽に温もりもらう老い独り　ウェブ連　江戸川散歩
陽を撃って水鉄砲が虹を生む　ウェブ連　中西　麓草
太陽と呼ばれて嬉し母の業　ウェブ連　あじさい恵子

宝六

太陽と地球はキスができぬ仲　ウェブ連
お日様にまた会えました退院日　ウェブ連
木漏れ日が美人のうなじ覗いてる　ウェブ連
ご近所の日だまりめぐる猫の旅　ウェブ連
太陽の照らす通りに生きていく　ウェブ連
WO 太陽の吐息みたいなミニトマト　ウェブ連
太陽がオレを笑うぜうすのろと　ウェブ連
喧騒に夕日もよどむ都市の空　ウェブ連
あと五分沈まないでよその夕陽　ウェブ連
ありがとうお日様今日もありがとう　ウェブ連
まぶしさがじわっと責める朝帰り　ウェブ連
太陽が唱うチューリップも歌う　ウェブ連
太陽が岩戸に隠れ世紀末　ウェブ連
太陽を抱え込もうと広げる手　ウェブ連
ケータイで太陽写す初日の出　ウェブ連
黄昏がまた明日にと海に消え　ウェブ連
太陽の似合う景色を走ってる　ウェブ連
シャッターを降ろす街にも陽は昇る　ウェブ連
ひまわりがやさしく夕陽見送った　ウェブ連
太陽は落ち込む僕に暖かい　ウェブ連
今ははやとなりの妻がわが太陽　ウェブ連
陽だまりは太陽からのプレゼント　ウェブ連
太陽の真下で食べるかけうどん　ウェブ連
太陽にかざし一句をよしとする　ウェブ連
お日様はいつも見ている笑ってる　ウェブ連
陽だまりでゆっくり過ぎる猫時間　ウェブ連
同じだよみんな太陽から見れば　ウェブ連
人間のエゴが太陽曇らせる　ウェブ連
お日様に搾り出されて汗ぽたり　ウェブ連
太陽の裏側でまた会いましょう　ウェブ連
太陽を一人占めには　出来ぬだろ　ウェブ連
西日射す別れの手紙置いてある　ウェブ連
太陽の恵みお庭で水遊び　ウェブ連
太陽の恵み裸の子ら走る　ウェブ連
太陽の残像僕は生きてます　ウェブ連
捨て犬と一緒に見ていたあの夕日　ウェブ連
太陽が許してくれるまで懺悔　ウェブ連
太陽に負けないぐらい大笑い　ウェブ連
太陽に照らして欲しい会社でも　ウェブ連
有難きearthに注ぐエネルギー　ウェブ連
天照らす光輝くまぶしさよ　ウェブ連
距離感を求める無敵の王者かな　ウェブ連
喜怒哀楽御破算にして陽が昇る　ウェブ連
太陽が眩しい朝の心地よさ　ウェブ連
通り雨お日様映す水たまり　ウェブ連
太陽はいつも友達とはいかず　ウェブ連
太陽のかけらのような子らである　ウェブ連
赤フンのあとが自慢の川遊び　ウェブ連
シャボン玉日輪分けて跳ねている　ウェブ連
縁遠い娘の髪に陽の匂い　ウェブ連
狭い我が家張りが違う娘のチチだった　ウェブ連

なかたろう
数納徒然子
数納徒然子
数納徒然子
西端　康孝
保岡勘句郎
蒔田　燦后
小出　小吉
田中　犬助
河原　ゆみ
ＳＨＯＺＯ
大野　征子
谷口てんと虫
田中　犬助
天野　水貴
小野崎愛純
川津うさぎ
今井赤とんぼ
田中　犬助
田村ひぐらし
板倉　凡
島田　亀楽
川上　隆
川上　隆
南野　耕平
南野　耕平
南野　耕平
長谷川庄次
南野　耕平
南野　耕平
田村ひぐらし
藤森いさお
藤森いさお
藤森いさお
藤森いさお
藤森いさお
藤森いさお
ルビーの指環
壱岐kenya
格差社会
池永　空庵
池永　空庵
文屋　恵華
柳田　香
長谷川庄二
長谷川庄二
長谷川庄二
山下こなみ
長谷川庄二
井口堂のロバ
石井さざ波
鮫島　桜我

宝七

サプライズ西から昇る陽を見たい　ウェブ連　片岡ぎじゅん
太陽と話がしたい豆の蔓　ウェブ連　渡辺　南奉
太陽は明日の約束破らない　ウェブ連　竹重　満風
サングラス帽子に日傘　誰だっけ？　ウェブ連　国分　玲夢
太陽に僕のすべてを晒してる　ウェブ連　遊牧　民草
お日様に両手合わせるホームレス　ウェブ連　三条　河原
太陽の恵みお庭で水遊び　ウェブ連　藤森いさお
太陽に向かって叫ぶ奴もいた　ウェブ連　今田　悟空
お日様が見てるぞ元気な裸足の子　ウェブ連　森川ひまじん
生霊が宿る樹海に陽のしずく　ウェブ連　岡谷よし子
この朝日北方領土で観てみたい　ウェブ連　樋口　裏表
また明日太陽昇るも我が命　ウェブ連　歌井　益男
気がつけば夕日に心支えられ　ウェブ連　加納　完祥
太陽といわれた過去を持つ落葉　ウェブ連　谷口　東風
太陽の寿命気になる苦労性　ウェブ連　谷口　東風
太陽は変らず七つ釦果て　ウェブ連　森川ひまじん
慈悲の陽が病んだ地球にそそいでる　ウェブ連　柳谷　春爺
太陽は下に下にとは言わぬ　ウェブ連　加藤　順也
太陽を噛みしめたくてトマト買う　ウェブ連　加藤　順也
太陽に梯子かけてた　奴もいた　ウェブ連　今田　悟空
原油高ソーラーカーが出番待つ　ウェブ連　渡辺　進
吊橋を渡る男の背に夕陽　ウェブ連　片岡　義順
太陽に祈る世界の核廃棄　ウェブ連　林　呑鶴
それぞれの島にそれぞれ陽が沈む　ウェブ連　比嘉チャンス
お日様のような玉子をかけごはん　ウェブ連　石井さざ波
太陽が　見たくて窓を　拭いている　ウェブ連　岸　四季
陽が射さぬ殯の森に彷徨い込み　ウェブ連　大友　呑京
その昔太陽だった人も老い　ウェブ連　大友　呑京
太陽の父の厳しさ母の愛　ウェブ連　林　鈍鶴
太陽が座る日の丸ど真ん中　ウェブ連　林　鈍鶴
太陽を國旗にしたてた素晴らしさ　ウェブ連　林　鈍鶴
日が伸びた次の駅まで行こうかな　ウェブ連　染谷さくら
太陽だ君はと言って半世紀　ウェブ連　鎌倉　老人
太陽も時にはきっと夜叉になる　ウェブ連　村上　直樹
太陽に二礼二拍の宝くじ　ウェブ連　佐々木すずらん
太陽を見て植える位置確かめる　ウェブ連　佐々木すずらん
太陽が背中に元気と書いた汗　ウェブ連　今井赤とんぼ
陽のあたる私の机窓のそば　ウェブ連　松　久園
にわか雨太陽もまたリフレッシュ。　ウェブ連　池田クジラ
岡本太郎の塔が見事に夕焼ける　ウェブ連　佐々木えぇ一
水着の跡は太陽のキスマーク　ウェブ連　佐々木えぇ一
お日様とばったり出会う仕舞い風呂　ウェブ連　渡辺ヤスヒロ
眩しさの中で覚える陽の恵み　ウェブ連　長谷川庄次
日当りは隣が何時もよく見えて　ウェブ連　板倉　凡主
サンオイル肩身狭いよ今昔　ウェブ連　湯之　水仙
大夕焼け明日を約して解けてゆく　ウェブ連　成定　竹乃
太陽を世界が拝む平和の日　ウェブ連　片岡　義順
太陽が残して行った顔のシミ　ウェブ連　ルビーの指環
陽の当たる道を選んで生きている　ウェブ連　ルビーの指環
ワイシャツが揺れるほのかな日のにおい　ウェブ連　藤本　鈴菜
W1388 太陽にかざす手のひら幸の文字　ウェブ連　市川　勲

宝八

太陽よ私の次に眩しいね　ウェブ連　野上　虚士
太陽の陽のぬくもりに母想う　ウェブ連　大平　盆子
太陽よ美しい国守ってよ　ウェブ連　臨海　和笑
太陽真上何も恐れることはない　ウェブ連　成定　竹乃
陽炎に揺れる太陽遠き日々　ウェブ連　正村　惟揺
太陽に申しわけない屋根のお湯　ウェブ連　松永　翔司
掌にうける春の日差しほどの余生　ウェブ連　松永　翔司
平静のうちに日は黒点となり　ウェブ連　永田　良月
手を合わす朝日に添える鐘の音　ウェブ連　白髪のオヤジ
今日の無事沈む夕日にありがとう　ウェブ連　なか　むら
太陽になって出て行く理髪店　ウェブ連　門脇かずお
百歳を超え太陽のままでいる　ウェブ連　門脇かずお
日輪に命託され今日生きる　ウェブ連　藤本　直
太陽が積み上げてゆくビール缶　ウェブ連　小原すみれ
太陽のページが多い子の画帳　ウェブ連　小原すみれ
太陽が大胆にする娘の水着　ウェブ連　小原すみれ
太陽が照らしても銃鳴り止まず　ウェブ連　長谷川庄次
太陽を金色に描く素敵な子　ウェブ連　大海　幸生
太陽に地球が好きか尋ねたい　ウェブ連　園橋軒太郎
すぐに勃つ役立つ薬長く勃つ　ウェブ連　小田切駄目翁
この星にまだ人間が生きている　ウェブ連　中前　棋人
太陽に吠えては見るが所詮俺　ウェブ連　常松　士芳
太陽のくせに見てないふりしてる　ウェブ連　かわず土竜
話してもわからない太陽がいる　ウェブ連　かわず土竜
太陽の許可なく戦さするなかれ　ウェブ連　大竹　珍豚
ＯＫが出て太陽に投げキッス　ウェブ連　大竹　珍豚
太陽がそっぽ向いてる平和論　ウェブ連　佐藤　芳行
裏切りのない太陽のうらおもて　ウェブ連　佐藤　幸子
敗れても夕陽がくれる敢闘賞　ウェブ連　光畑　迷留
太陽をグイと呑み込みすくと立つ　ウェブ連　高島　白梟
太陽にみなブラインドのオフィス街　ウェブ連　渋谷　史恵
太陽の魔法がかかる旬の味　ウェブ連　乙川　行雲
太陽と決着がつき梅雨明ける　ウェブ連　乙川　行雲
少々の手抜き　お日様笑ってる　ウェブ連　南川　哲夫
お日様へ　ＰＳ・元気です　飛魚　ウェブ連　夏目　僧籍
陽だまりと言われて買った無人島　ウェブ連　原　我楽多
太陽を祈り倒して生きている　ウェブ連　仲神　裕子
太陽に成れない親が多過ぎる　ウェブ連　高橋豊楽殿
瞼閉ず太陽の残像福々し　ウェブ連　森川ひまじん
稜線をくっきり描く朝になる　ウェブ連　丸山　陽香
日向にも日影にも太陽は居る　ウェブ連　遊牧　民草
無神論でも手を合わすご来光　ウェブ連　高橋　敬三
お日さまは日勤　ボクは夜勤です　ウェブ連　高橋　敬三
日食の記憶　少年立ち直る　ウェブ連　遊牧　民草
朝の陽が力を貸すと言っている　ウェブ連　高田　羅奈
お日様と共に寝起きの遍路杖　ウェブ連　西村すすむ
太陽の塔が言ってる爆発だ　ウェブ連　西村すすむ
リハーサル終え太陽を待つばかり　ウェブ連　高田　羅奈
太陽をときどき怨む影法師　ウェブ連　高田　羅奈
太陽に命を貰う朝の露　ウェブ連　毬谷　まり
耐え抜いて昇る朝日を信じ切る　ウェブ連　大脇　一荘

宝九

太陽のウインク待っている地球	ウェブ連
夕陽見れば天動説を信じたい	ウェブ連
直球で夏の日差しと勝負する	ウェブ連
日の光浴びて充電してるネコ	ウェブ連
太陽に感謝三度の飯がある	越後連
どくだみに恋して夕日落ちてゆく	越後連
太陽にまっすぐ向う白いシャツ	越後連
争いはやめよ太陽からメール	越後連
太陽は道草の子が大好きで	越後連
一合の酒で太陽赤くなる	越後連
太陽が哭いたあの日は終戦日	越後連
太陽の位置が農夫の時間です	越後連
太陽が照ると農夫が休めない	越後連
看板の裏を照らしている夕日	越後連
太陽の恵みに生きる長寿国	越後連
太陽の渚は知らぬ深海魚	越後連
わたしには私だけの太陽が	越後連
太陽を体内時計刻み込む	越後連
太陽を盛りつけている国自慢	越後連
夕陽には本音を語る影法師	越後連
太陽の苦笑を誘う核論議	越後連
太陽は偉大句箋に入らない	越後連
太陽が有って絵になる富士の山	越後連
エプロンの白へ太陽素直です	越後連
太陽と私を結ぶ赤い糸	越後連
太陽の申し子だった火の男	越後連
クレヨンで描く太陽は正直だ	越後連
宇宙船ソーラーの羽根陽を受けて	越後連
太陽が知っていますと笑ってる	越後連
太陽に断りもなく夏時間	越後連
太陽を信じて母は鶴を折る	越後連
太陽に晒す覚悟をした首だ	越後連
太陽が睨む手抜きのビル工事	越後連
お天道様が見てるんだよねおばあちゃん	越後連
太陽という手話みんな笑ってる	越後連
太陽をひとりじめした洗い物	越後連
太陽が無くなる事を考える	越後連
太陽にひれふしました終戦日	越後連
太陽の恵みで開らく古代蓮	越後連
父母という太陽浴びて愛を知る	越後連
平等の太陽の下テロ連鎖	越後連
太陽で一服つける老眼鏡	越後連
太陽と日傘とわたしかくれんぼ	越後連
太陽の画が食そそるビアホール	越後連
太陽が離ればなれの昼の酒	越後連
太陽は格差社会を作らない	越後連
太陽も地球もミジンコも生きる	越後連
太陽の顔が見たいと泣く野菜	越後連
太陽が無けりゃ着れないクールビズ	越後連
太陽系回転ずしのようなもの	越後連
太陽と遊んで小じわ泣いている	越後連

ボケサンゴ	ウェブ連
遠藤　哲平	ウェブ連
植竹　団扇	ウェブ連
植竹　団扇	ウェブ連
山宮　貞資	越後連
梅沢きく恵	越後連
星井　五郎	越後連
佐々木八寿	越後連
川崎まさみ	越後連
山宮　貞資	越後連
高橋　政栄	越後連
鈴木俊日出	越後連
鈴木俊日出	越後連
橋本　祐子	越後連
佐藤　テル	越後連
佐藤　テル	越後連
浦田無根底	越後連
浦田無根底	越後連
大滝十九八	越後連
野島　正夫	越後連
野島　正夫	越後連
長谷川朱嶺	越後連
松田　光一	越後連
江口諏訪男	越後連
山宮　和風	越後連
山宮　和風	越後連
安藤　恥目	越後連
小林ときを	越後連
渡辺ひろ美	越後連
野島正夫	越後連
山宮　貞資	越後連
橋本　祐子	越後連
宮村　桂路	越後連
神田ヒロ子	越後連
石川　鮎郎	越後連
皆川　綾子	越後連
皆川　綾子	越後連
皆川　綾子	越後連
草ヶ谷茂男	かっぱ連
高木　貴湖	かっぱ連
石村まさ子	かっぱ連
肥田野利雄	かっぱ連
肥田野淑子	かっぱ連
石川美佳子	かっぱ連
權守いくを	かっぱ連
福島　久子	かっぱ連
福島　久子	かっぱ連
榎　里佐子	かっぱ連
山根　博正	かっぱ連
村瀬いくお	かっぱ連
照沼まりえ	かっぱ連

宝十

太陽を恨んで消える雪だるま　かっぱ連　松崎　真治
お日様の絵が並んでる幼稚園　かっぱ連　川崎　慎一
太陽を頂きますとビルが建ち　かっぱ連　伊藤　睦子
太陽を真っ黒に塗る子の心　かっぱ連　生沼　泰子
昨日のと今日の太陽ちがってる　かっぱ連　井上喜代司
日の出ずる神国日本どこいった　かっぱ連　今野　良子
万物に恵み与える陽の力　かっぱ連　丹羽　銈一
おひさまにおへそなめられひるねする　かっぱ連　原　えつお
「おせなかにお日様いるよ」孫の声　かっぱ連　吉田　法子
太陽の恵みを知らぬ科学の子　かっぱ連　稲谷昭一郎
下手な絵も誰もがわかる太陽だ　かっぱ連　市野　恵子
幸せな歩幅夕陽が美しい　かっぱ連　内田　博
美しい夕陽呑みこむ日本海　かっぱ連　木内十三江
太陽の光と影に今を生き　かっぱ連　藤井　未成
隣人の布団叩きに陽が沈み　かっぱ連　藤井　未成
陽の光り心の闇を通り抜け　かっぱ連　藤井　未成
倒れてもまた昇る日を見るつもり　九品連　宮下　浩子
思うことありて夕陽のあたたかさ　九品連　宮下　浩子
小さき手をつないで登る日暮れ坂　九品連　宮下　浩子
陽が昇り今宵これまで千一夜　九品連　瀧口　吉亮
太陽の恵みを知らぬ深海魚　栄連　青鹿　一秋
天の岩戸開け太陽を取り戻す　栄連　青鹿　一秋
陽の恵み地に万物を孕ませる　栄連　朝倉　正春
太陽の下にまぶしい長い脚　栄連　油谷　克己
陽の当る道を歩いて知る挫折　栄連　油谷　克己
若さむんむん小麦色した日焼け肌　栄連　油谷　克己
老農夫朝日に深く頭垂れ　栄連　油谷　克己
太陽のような妻ですいつも晴　栄連　油谷　克己
太陽を信じ込んでる田植え歌　栄連　阿部　浩
八起きめの汗を流せと陽が昇る　栄連　阿部　浩
太陽にもう九条はかざせない　栄連　阿部　浩
ゆとりある暮らしは朝の陽を拝む　栄連　新井　清心
嫁ぐ日に父と並んで見た朝日　栄連　新井　清心
朝焼けの屋根で伸びする親子猫　栄連　新井　清心
世界史の闇も太陽知っている　栄連　新井　清心
太陽は人生訓がつまってる　栄連　新井　清心
太陽のようだと言われ疲れ気味　栄連　新井　俊夫
嫌われて好かれて太陽惑う夏　栄連　荒木　勉
夕焼けが君を明日に連れてゆく　栄連　江本　雲伝
太陽の寿命を憂い朝が来る　栄連　一條　健次
戦争を見逃していたお天道　栄連　伊藤三十六
おおと日が昇り嗚呼と日は暮れゆく　栄連　伊藤　三番
太陽を拝んで今日の幸祈る　栄連　井端　宗作
太陽を見てきた喜寿の数え唄　栄連　今井　旺波
美しい国に格差のない朝陽　栄連　今井　旺波
職安にきて太陽を探してる　栄連　今井八重子
下町に元太陽の叔母がいる　栄連　今出　公志
物干しで太陽を見る白寿の日　栄連　いわ・たろう
ご来光山の男の仁王立ち　栄連　岩垣なつめ
お天とうさん魚干し布団干し甲羅干し　栄連　高瀬　鴻水
太陽とにらめっこして立ちくらむ　栄連

寅十一

太陽に夢を蹴上げるサッカー部　宇井　久　栄連
太陽は何で赤いんや　なんでも燃えたら赤いやろ　植田雪の玉　栄連
太陽世界紛争に冷めゆかん　上利　徹次　栄連
すべり台母の待つ背に影法師　内村　恭子　栄連
西の果て夕日呑み込む海がある　梅戸　義申　栄連
日のひかり財布に遠きパート給　老境好サン　栄連
ビルが建ち日差しに格差角が立つ　海老原順子　栄連
太陽に身動ぎもせぬ北の核　河口　世詞　栄連
太陽が内気でなかなか出てこない　大石　克子　栄連
太陽を背にして妻と果し合い　大石　浩司　栄連
天道の尊顔に泥塗らぬよう　大木　俊秀　栄連
お日さまに顔向けできぬサングラス　大木　俊秀　栄連
ベランダの一輪パッと陽を貰い　大塚　登　栄連
七十路は拝む朝日も堂に入る　大塚　登　栄連
佳いことはやっぱり朝日浴びてから　大塚　登　栄連
少子化を笑う太陽子沢山　大戸　和興　栄連
地を照らし心を照らす輪廻の陽　宮　孝　栄連
太陽のような髪型する兄貴　大野　美波　栄連
日出づる国のプライド見せた松坂投手　文野　転斎　栄連
太陽と動く軍手の時間給　岡　さくら　栄連
太陽の味も加えた無農薬　岡　さくら　栄連
古希傘寿薬談義の日向ぼこ　岡　さくら　栄連
真っ赤な夕陽アートになる台所　岡　さくら　栄連
太陽がほぼエキストラ銀河系　小川　利雄　栄連
ささやかな変身気分サングラス　荻原　正知　栄連
当然の太陽がある有難さ　荻原　正知　栄連
太陽も時が経ったら山の神　小倉　定守　栄連
あの人の頭で太陽反射する　小倉　定守　栄連
最大の金の指輪は金環食　小倉　定守　栄連
太陽も泣いているだろ温暖化　加藤久美子　栄連
日輪の大地は神の慈悲を抱き　加藤　権悟　栄連
太陽のエールに弾む父の鍬　加藤　権悟　栄連
偽善者の掌に太陽の眩し過ぎ　加藤　権悟　栄連
お陽様に祈ると丸くなるこころ　加藤　権悟　栄連
お日様と語る減反とのいくさ　加藤　権悟　栄連
太陽と語る減反との戦　加藤　権悟　栄連
月映す浮気男と太陽と　清見ひとみ　栄連
日を受けて鳥が鳴くのもうたたねも　金原賀津美　栄連
太陽も温暖化には気を反らす　金子照八郎　栄連
日蔭の身陽の当たる時いつの日か　金田正太郎　栄連
待ち合せ現れし君太陽か　金田正太郎　栄連
太陽は格差をこえて愛そそぐ　金光　保嘉　栄連
ご来光眼下におがむ富士山頂　金光　保嘉　栄連
負けるなよ陽はまた昇る花も咲く　亀谷　郁久　栄連
失敗も太陽掴む通過点　妹背山歌鳥　栄連
温暖化私のせいじゃありません　妹背山歌鳥　栄連
心病み君は心の太陽だ　妹背山歌鳥　栄連
太陽をただで使って感謝なし　河西　健二　栄連
太陽の下で命の身繕い　川路　泰山　栄連
年輪の一筋ごとに陽を刻む　川路　泰山　栄連
北風に勝った太陽母の顔　菊池　正男　栄連

寅十一

太陽の光りを浴びてよりよく生きる　栄連　北川百花
流しびなに身を置いて太陽へと向う我身　栄連　北川百花
華麗なる入り日に明日の夢を見る　栄連　万年幹事
太陽を嫌って月下美人咲く　栄連　万年幹事
虫食いの葉にも太陽立ち寄りぬ　栄連　万年幹事
太陽の匂いの中に寝る至福　栄連　万年幹事
日焼け止め塗って太陽好きと言う　栄連　万年幹事
太陽がおねしょの跡を知らんふり　栄連　万年幹事
団塊が太陽浴びて定年日　栄連　草野稔
太陽のぬくもりすいこむ布団干し　栄連　久保紀子
主婦となり目指すは家族の太陽に　栄連　久米美香
アマテラス格差社会に岩戸閉じ　栄連　倉澤平太
太陽が地中の虫にノックする　栄連　義川現
雨雲の上に輝く陽の光　栄連　雪心庵青柳鬼
太陽を掴んで龍と成る大愚　栄連　雪心庵青柳鬼
神仏や衆生無くても陽は燃える　栄連　雪心庵青柳鬼
格差社会お日様だけは平等だ　栄連　後藤洋子
太陽に黒い地球が叱られる　栄連　後藤洋子
太陽が東へ没む夢を見た　栄連　小林三華
太陽と人は定めを共にする　栄連　小林みさ子
太陽に感謝する日があればいい　栄連　小林ヨネ子
太陽と褒めておだてて非をかくす　栄連　小亦智子
太陽と褒めたつもりだ型じゃない　栄連　小亦智子
お墓まで南を向いて建っている　栄連　斉藤健正
太陽を猫も杓子も奪い合い　栄連　斉藤健正
西方浄土明日また昇る陽を拝み　栄連　斉藤弘美
あったかい朝日のシャワー抱きとめて　栄連　坂口美世子
光年の陽に育てられ命積む　栄連　坂本嘉三
太陽の色で自画像盛り上げる　栄連　坂本嘉三
邪魔のない陽の温み抱く過疎の贅　栄連　笹島一江
太陽の愛には格差などはない　栄連　笹島一江
太陽が沈むと動く交際費　栄連　笹島一江
太陽が応えてくれる今日の靴　栄連　笹島一江
太陽に背いて守る白い肌　栄連　笹島一江
日焼け止めなどと失礼お許しを　栄連　笹島一江
太陽みたく私の長所笑いすぎ　栄連　佐藤妙恵
太陽に焼かれた体黒人だ　栄連　真田陽介
結願の朝日を拝す遍路旅　栄連　澤田迪子
お日様と敬語をつけて呼ぶ農夫　栄連　設楽亜季浩
太陽で十七年を看病し　栄連　渋木恵美子
太陽のスポットライトさがし居る　栄連　清水良子
太陽は日陰育ちの身に染みる　栄連　一色哲士
日の丸にケチをつけてる日本人　栄連　城後逸亭
太陽の光がこわい世とはなり　栄連　城後逸亭
あとわずか輝きたいのあなたのように　栄連　星野瞳
太陽の恵み集めて桜咲く　栄連　末吉勝
日光写真そっと見てたる日なつかし　栄連　杉田千鶴
太陽は星より大事国旗見て　栄連　千津敬紀
太陽と月のどちらに軍配か　栄連　杉山幸彌
太陽に向かって言い訳はしない　栄連　杉山太郎
栄 0900　太陽は人に要求などしない　栄連　杉山太郎

金土三

偽りの言葉も太陽は照らす　杉山　太郎　栄連
暗いウツ癒してくれる太陽(ひ)の光　柳原キィ子　栄連
火の玉を充電させる青い空　杉山　康子　栄連
太陽に一杯ささされ赤富士に　杉山　由治　栄連
太陽に背いて生きる夜の蝶　鈴木　昭紀　栄連
お日さまにご無沙汰してます夜の蝶　鈴木　昭紀　栄連
新子逝く日の太陽も涙ぐむ　鈴木　誤差　栄連
太陽と笑顔どちらも大きいね　モーリス・キオズ　栄連
陽の当たる坂道歩く影元気　モーリス・キオズ　栄連
太陽が眩しく見える二日酔い　モーリス・キオズ　栄連
苦い恋過去の太陽封をして　モーリス・キオズ　栄連
母のごとし強さと温みを持ち合わせ　鈴木　裕子　栄連
太陽がわたしの今日をつれてくる　住田勢津子　栄連
太陽と思えるものを見つけたい　とのかわよしか　栄連
正直に生きていたいと陽を拝む　園田清太郎　栄連
臆病な明るくなって君は出る　高木　古狸　栄連
陽がいっぱい早苗豊作保証する　高瀬　輝男　栄連
太陽よ荒れた地球を癒せるか　高瀬　輝男　栄連
今朝わたし太陽の子を産みました　高瀬　輝男　栄連
照りつける干物の横のおばあちゃん　袋小路酔迷　栄連
21世紀の太陽になれ九条論　武川影法師　栄連
悲しい時は悲しいままに日が昇る　武川影法師　栄連
太陽を待つ病棟の長廊下　武田　悟　栄連
非常ベル押せば太陽ぬっと出る　竹の内倭人　栄連
悪戯は止せ太陽の独り言　竹の内倭人　栄連
太陽を真ん中に描く青写真　竹の内倭人　栄連
太陽が呉れた私の影法師　田中　吐夢　栄連
夕焼の赤血管を流れ行く　田中　雲柳　栄連
この台詞御天道様の下で言う　田中　雲柳　栄連
太陽が楽しい苦労くれました　田中　乗子　栄連
太陽の匂いは出せぬ乾燥機　田名瀬薪太郎　栄連
お天道さんに恩があるから生きてきた　千島　鉄男　栄連
太陽が好きで引っ張ることにする　千島　鉄男　栄連
太陽に甘え過ぎてはいませんか　坪内　照光　栄連
太陽と握手をしたい嬉しい日　富谷　英雄　栄連
太陽を味方につけた方が勝ち　富谷　英雄　栄連
太陽も自己中だったらどうなるの　中島みゆき　栄連
政策に太陽足りぬ寒い国　中野　賢一　栄連
太陽よなんでお前は元気なの　中野　亘二　栄連
太陽に黒点人に黒子あり　中安　敏郎　栄連
太陽と水と緑と君と僕　中山川柳美　栄連
朝晩の君の笑顔に太陽賞　中矢　陽三　栄連
太陽の真下イラクの子が叫ぶ　西秋中兵衛　栄連
太陽を迎えに行きたい遠足日　林　好栄　栄連
太陽と語れば雲が嫉妬する　疋田　吉郎　栄連
太陽があるから人は生きるんだ　疋田　吉郎　栄連
まぶしいのは太陽でなくあなたよ　日野　江美　栄連
アメリカという太陽のお節介　藤原　鬼桜　栄連
太陽になろうとする雲雀　藤原　鬼桜　栄連
太陽も天涯孤独だったのか　藤原　鬼桜　栄連
栄 1430　病院の窓は朝日を待ち望む　古川　一男　栄連

宝西

どん底に落ち太陽にしがみつき　栄連　古屋　清仁
生きるとは楽しいものだよ陽が昇る　栄連　古谷　文子
テロの国平和の国にも笑む太陽　栄連　古屋　牧男
お陽さまに静かに抱かれ眠りたい　栄連　保科夏木文
太陽に当てたくはない足の裏　栄連　保田　二郎
お日様は鬱の心を掃除する　栄連　増　彦
湘南は海と太陽若者と　栄連　増　彦
うとうとと陽射し差し込む午後の時　栄連　まっしん
奥の手が欠伸している西日窓　栄連　松川　涙紅
太陽は背中見せない大物さ　栄連　松川　涙紅
太陽を自負した母の子沢山　栄連　松本　律子
太陽が出てこない日は客も来ぬ　栄連　三塚やゑ子
太陽の無償無限の愛が降る　栄連　三塚やゑ子
太陽が手づくり野菜甘くする　栄連　村島　麗門
まっとうに生きてオテント様仰ぐ　栄連　山内アダン
ときどきは陰るわたしの太陽よ　栄連　山倉　洋子
画用紙いっぱい太陽だった少年期　栄連　山倉　洋子
真夏の陽翼休めて冷奴　栄連　山添　静子
太陽を真ん中にして寄せ書きす　栄連　山本　明参
太陽も愛もいつかは燃え尽きる　栄連　吉川　一男
太陽と神だな拝む老いたる手　栄連　吉田喜久子
太陽は格差社会はつくらない　栄連　吉本きんかん
夕映えの金波銀波に心満つ　栄連　渡邊　淳
汚された海に抱かれて行く夕陽　栄連　渡邊　淳
夕映えの空蹴り上げる逆上がり　栄連　渡邊　淳
太陽に明日の命励まされ　栄連　渡邊　淳
赫々の落輝へ明日を予約する　栄連　渡邊　淳
太陽に燃え尽きるもの残るもの　栄連　渡邊　淳
やるだけはやった夕陽と握手する　栄連　渡邊　淳
麦秋の海に夕日の応援歌　栄連　渡邊　淳
太陽が達磨になって海に落ち　栄連　渡邊　淳
夕焼けて笑い話がしたくなる　栄連　渡邊　淳
次次と過去を作って行く夕日　栄連　渡邊　淳
朝焼けの雲に希望と書いてある　栄連　渡邊　淳
優しさの太陽というのに気付き　栄連　渡邊　淳
鍵っ子の涙を夕日拭いてやり　栄連　渡邊　淳
沈む日の向こうはきっと遊園地　栄連　渡邊　淳
太陽の当たらぬ国よ拉致の子よ　栄連　油谷　克己
名園の自負太陽を一人占め　栄連　荒川　信
太陽は涙を乾かすためのもの　栄連　新井　清心
太陽はきっとひまわり好きなんだ　栄連　新井　清心
子等の画くお日様ママの顔に似る　栄連　安藤　好美
お陽様を仰いで鼻をくすぐられ　栄連　安藤　好美
夕日落つあのシベリアに兄眠る　栄連　安藤　好美
太陽がわたしにくれた退院日　栄連　今井八重子
世の中がどう変ろうと日は昇る　栄連　猪井　年秋
太陽の子は脱ぎ捨てて噴水に　栄連　石橋　直子
太陽に吠える人なき温暖化　栄連　逸見　乱蝶
早寝早起きせよと太陽顔を出す　栄連　今井　旺波
太陽とおしゃべりしたい独り者　栄連　今井　旺波
太陽が主役人間傍役だ　栄連　伊藤　泰史

五十

太陽よりおてんとさまと呼ばせてね　五十嵐あき子　栄連
七転び八起きの先にある太陽　伊藤　照子　栄連
届かぬ光が増えゆく太陽の苦悩　伊藤　博　栄連
太陽も照り続けては嫌われる　夷亀　峻　栄連
あのオババ昔の俺の太陽だ　夷亀　峻　栄連
太陽に向く百姓という誇り　伊藤　巌　栄連
太陽がいる失恋はリセットす　伊藤　巌　栄連
布団干すこの幸せは何だろう　伊藤　巌　栄連
太陽に心の虫干し願います　上本マツヱ　栄連
太陽が匂う布団で孫弾む　梅津　康治　栄連
灼熱の太陽超える恋の過去　植松　萌え　栄連
車椅子太陽めざし走りたい　植松　萌え　栄連
母を待つ子の首影が長くなり　植松　萌え　栄連
太陽はまだユーモアを持っている　江尻　麦秋　栄連
太陽の下転んでも転んでも　江尻　麦秋　栄連
太陽にかざす老いの手節光る　遠藤　敏碩　栄連
ひまわりの恋太陽に実を焦がす　折井　素女　栄連
太陽も顔くもらせる温暖化　岡野そらん　栄連
太陽を敵に回したキノコ雲　小原　金吾　栄連
太陽にひまわり一つそっぽ向き　河野　保彦　栄連
太陽を煤のガラスで見つめた日　小林　正行　栄連
気のせいか昭和の太陽赤かった　たれすけポン太郎　栄連
太陽の光こぼして海女のゆく　河野ひさ江　栄連
神仏を持たず太陽拝みます　築田しづか　栄連
太陽がこんなに恋し雨三日　小出　貫凡　栄連
太陽はスゴイ無遅刻無欠勤　小林　三華　栄連
太陽と汗の野良着とうまが合い　片岡　英子　栄連
プチトマト太陽紅を添えたがり　片岡　英子　栄連
太陽に背いて花になるもやし　片岡　英子　栄連
太陽がはずかしがってかげつくる　小林　大作　栄連
吹っ切れた証朝日が燃えている　久保田見乗　栄連
太陽は遠くにあるからあたたかい　ミセス主婦　栄連
太陽にまっ白シーツ甘えてる　神山　元子　栄連
太陽と遊んでくれぬ子供たち　句の一　栄連
太陽の目を盗んではするネット　句の一　栄連
みれました今日も楽しい太陽よ　菅野はるみ　栄連
太陽にありがとうとコート脱ぎ　小松　栄子　栄連
あなたが空輝くだけであかるくなる　倉橋　節子　栄連
父の背に昭和の陽ざし残ってる　片岡　鶴子　栄連
かあちゃんの本が寝ているサンルーム　片岡　鶴子　栄連
陽のあたる坂で野心を捨てました　片岡　鶴子　栄連
ビル達が噛る三丁目の夕陽　北出　北朗　栄連
お日様に見られたくない盗み食い　北出　北朗　栄連
お日様にアイスクリーム舐められる　北出　北朗　栄連
陽光へ命が弾むスニーカー　片山　辰己　栄連
もう一度やれと背な押す夕茜　片山　辰己　栄連
今日の愚痴夕陽の海へ捨ててゆく　片山　辰己　栄連
太陽はただ爛々と怒るのみ　平山　栄連
太陽とにらめっこして勝ち目なし　齋藤　成　栄連
太陽の好きな家族で子沢山　佐瀬　あかね　栄連
太陽もほどほど出番がいいようで　里田　昌柳　栄連　成信

宝十八

お日様が爆発してるクレヨン画　佐藤きく子　栄連
あの頃の太陽を背に今も語る　佐木一恵　栄連
初日の出あとはどうでもいい日の出　櫻井寒流　栄連
願わくは夕陽のような引き際に　櫻井寒流　栄連
太陽の悲しい顔を見てしまう　新藤孝廣　栄連
パパの背が太陽よりも大きいよ　正田勘太郎　栄連
太陽に抱かれて夢を見る青田　神保十三夜　栄連
日差しにも格差をつけるビルの群れ　西野方　栄連
太陽の下でイジメができますか　聖洋子　栄連
太陽が味方で恥じるものが無い　嶋澤喜八郎　栄連
太陽がやけに身にしむ失恋日　左とく平　栄連
日時計に合わせて暮す退職後　鈴風柳　栄連
太陽は等しく注ぐ母の愛　鈴木広路　栄連
太陽が好き洗濯がすきお母さん　鈴木育子　栄連
太陽を連れて我が家に嫁が来る　高木眞秀　栄連
お父さん追っかけてくるよ太陽が　竹内正昭　栄連
太陽が登ればそれで元気でる　田上しのぶ　栄連
好い事があると日差しが心地よい　高田勲　栄連
太陽が育てた米で子を育て　高橋善雄　栄連
少子化の子に太陽も応援歌　高橋里江子　栄連
草野球太陽頼りの使用券　団塊の慎ちゃん　栄連
子供の絵みんな太陽笑ってる　高橋春江　栄連
コンクリート割って雑草陽を慕い　高橋春江　栄連
太陽を水鉄砲で狙い撃ち　竹重満夫　栄連
太陽を浴びて主役になる農夫　竹重満夫　栄連
太陽にもらう地球の栄養素　竹重満夫　栄連
太陽に愛されている地球の子　竹重満夫　栄連
太陽の恵みほっこり芋かぼちゃ　竹重満夫　栄連
太陽と付き合うときも距離をおく　田中久子　栄連
太陽を描く金色を買いにいく　田中久子　栄連
太陽を丸かじりするリンゴ狩り　土田宏虫　栄連
産児室あす太陽になる予感　土田宏虫　栄連
朝焼けが花見の場所を独り占め　筒井イッティ～　栄連
太陽を好きになれないフリーター　鳥居風人　栄連
削除キー太陽だって怖くない　中島久光　栄連
太陽を黒で描く日がいつか来る　中島久光　栄連
お陽さまに明日があると励まされ　永峰宣子　栄連
幸せな夢を見たくて干す布団　新里山歩　栄連
掛け替えの無いのが君と太陽だ　新里山歩　栄連
太陽がうれし涙を流す時　三草照実　栄連
太陽の花咲乱子きらめいて　三ツ草乱子　栄連
太陽よここを見て見て私なの　太陽星光　栄連
陽炎に揺られて少女蝶になる　沼田亀之助　栄連
太陽は吠えていません泣いてます　林雅則　栄連
太陽がやっぱり昇る定年後　橋本たけし　栄連
ひなたぼこ胸の秘密があたたかい　橋本たけし　栄連
陽は既に落ちた二人はまだ歩く　原はがくれ　栄連
太陽が眩しい嘘をついてきた　原峻一郎　栄連
働いて帰る夕陽の美しさ　原峻一郎　栄連
綾取りの影が躍って日向ぼこ　原峻一郎　栄連
無蓋車の涙夕陽よさようなら　姫宮遊子　栄連

宝七

追憶の奥に光っている夕陽　栄連　姫宮　遊子
太陽の使者かも知れぬ四季の花　栄連　疋田　吉郎
変わらない夕陽に染まる町が好き　栄連　飛田　陽子
老いたるか落日が背に重くなる　栄連　舟辺　隆雄
太陽に顔向け出来ぬ核兵器　栄連　福田　尚義
影踏みの子らの背中で陽は沈む　栄連　藤崎　良行
太陽の明るい無限恐わすぎる　栄連　藤井比呂夢
夕やけこやけ爪を斬る日は鬼を見ぬ　栄連　藤井比呂夢
修羅溜めて太陽の子を産みおとす　栄連　藤井比呂夢
陽がしゃべるから村も街もしゃべりだす　栄連　藤井比呂夢
神前の花より太陽ありがとう　栄連　保田　二郎
太陽の恋人がいま臨月に　栄連　増田　邦比古
太陽よおれのねむりをじゃまするな　栄連　前田　直人
太陽が当って欲しい病棟に　栄連　松島　多柳
虻を追う牛の背中に日の光　栄連　増田　和彦
金色に染める手のひらリズミカル　栄連　松本樹間舎
かくれんぼ鬼もかくれる影の中　栄連　松本樹間舎
真正面から見て太陽を驚かす　栄連　南川　光男
太陽が奥まで入るウサギ小屋　栄連　南びわっ子
太陽を浴びて鍬振る祖父元気　栄連　南びわっ子
サンルーム妻の癒しの汗ひかる　栄連　三浦　進
影法師まだ生きている生きている　栄連　山市　雅美
ひまわりや一糸乱れぬひなたぼこ　栄連　山内　民子
太陽が似合わぬ歳になりにけり　栄連　山下怒素人
太陽のかけらが揺れる川の底　栄連　山本　一夫
綾取りをそのまま掬う陽の光り　栄連　山本　一夫
残照がわたしを魔女に誘い込む　栄連　吉冨　廣
ほらそこに太陽二つ君と僕　栄連　吉村　昌子
御先祖様朝のお日様入れますよ　栄連　石田　敏美
太陽にバトンタッチをするネオン　栄連　井上　関男
太陽が頑張れと背を押してくる　栄連　内山　月子
蓮の花頬紅さして朝日待つ　栄連　小野山雄二
太陽の合図で花がみな開く　栄連　岡本かくら
太陽を味方に巡る車椅子　栄連　大田かつら
この社会御天道様のおかげです　栄連　石井　清次
そして駆け込み寺の夕陽が温かい　栄連　岩間　トキ
日が沈む子らに八月語らねば　栄連　岩間　トキ
お天とう様お見透しなのに春遠し　栄連　内田　恒行
太陽の笑顔画用紙から零れ　栄連　江藤　一市
路地裏の鉢にもおなじ陽の恵み　栄連　江藤　一市
太陽をひとり占めしておむつ揺れ　栄連　榎本　礼子
節くれた指お日様と仲が良い　栄連　榎本　礼子
太陽に少うし甘え過ぎていた　栄連　小野真備雄
太陽が紙いっぱいのクレヨン画　栄連　大久保　昇
山頂に立ち太陽を一人占め　栄連　大久保　昇
太陽の子になる空のしゃぼん玉　栄連　大久保　昇
太陽が覗くへそくりあるタンス　栄連　大久保　昇
太陽の機嫌を気にする温暖化　栄連　金井　七絵
殺戮のえくぼを撫る大落暉　栄連　勝又　明城
夕焼け小焼けオゾンの手話に明け暮れる　栄連　勝又　明城
栄 4221　寝たきりの海馬に宿る御来光　栄連　勝又　明城

寅十八

まえむきにうちも太陽光発電	栄連	角田　巌
天日干し秘する物など何もない	栄連	木天　麦青
手鏡で太陽を受け遊んだ日	栄連	久保田婆笑
太陽に恥じぬ男の影法師	栄連	空閑　旺照
八月の太陽海を燃えさせる	栄連	小島　功
太陽に叱ってほしい朝帰り	栄連	小林　和美
太陽を背にして今朝の満歩計	栄連	菊池　ゆみ
太陽がかくれんぼする杉木立	栄連	菊池　ゆみ
太陽に精いっぱいを誓う朝	栄連	菊池　ゆみ
西日受け茜に染まる日本海	栄連	菊池　ゆみ
オーロラを躍らせる陽の夜の詩	栄連	北川　玄武
影法師ダイエットさせ陽が沈む	栄連	北川　玄武
お日さまと一緒に歩く影法師	栄連	熊坂よし江
太陽に地球は青く生かされる	栄連	熊坂よし江
太陽が産んだ奇跡の星地球	栄連	佐藤　桃猫
夕映えを帷子にして蝉時雨	栄連	佐々木真水
日輪も白内障に悩まされ	栄連	佐々木真水
私ラヴキミは英語でサンさんだ	栄連	阿部　勉
究極のマラソンランナーゴールない	栄連	斉藤　修虫
太陽に面白くないサングラス	栄連	坂牧　春妙
ご来光拝んだ山に午後は虹	栄連	杉谷　和雄
落日にまだ捨切れぬ夢燃やす	栄連	平成　太郎
信念を曲げぬ太陽人生譜	栄連	佐藤由美子
太陽は地球の歴史見つめてる	栄連	田村　隆一
ひまわりは天動説を疑わず	栄連	田鎖　晴天
朝だけが拝める太陽安下宿	栄連	田村　琢司
幾つもの太陽書いたラブレター	栄連	田村　琢司
環境をかえてみましょ　太陽で	栄連	田貝　浩紀
話しかける海は優しい陽をかえし	栄連	高橋　双葉
太陽の愛が詰まっているトマト	栄連	竹本　よし
下心お天道様はお見通し	栄連	時実　育代
お日さまと早寝早起きして長寿	栄連	堤　日出緒
朝の陽に活気溢れる町工場	栄連	田口ワタル
太陽はきっと楷書で生きている	栄連	田村あき子
何もかも許して夕焼けが消える	栄連	田村あき子
ひらがなで諭してくれたお日様だ	栄連	田村あき子
太陽はきっと屈理屈など言わぬ	栄連	田村あき子
太陽の正攻法がつづいている	栄連	田村あき子
太陽に賞味期限が書いてない	栄連	タケダセイキ
朝日浴び体内時計整える	栄連	タケダセイキ
太陽の名前に負けた子が独り	栄連	七戸喜代子
太陽に負けない肌できらめいて	栄連	浦島　亀子
太陽に自信あるから言えること	栄連	浦島　亀子
濡れ縁で足の裏ほすおばばさん	栄連	内藤　ユズ
菜畑に陽とたわむれる蝶二匹	栄連	古東　チリ
若い日の夕日はどこへ消えたのか	栄連	古東　チリ
気にしない太陽だってシミがある	栄連	半田ひろえ
太陽に透して選ぶ愛の彩	栄連	平田あさみ
夕焼けに母を残して離農する	栄連	平田あさみ
太陽に少しはにかむ小い善	栄連	平田あさみ
太陽と酸素を吸った旬とどく	栄連	富田　美義

宝十九

オーロラは太陽からのラブレター　栄連　富田　美和
真実は一つ太陽味方です　栄連　藤本真喜子
仕事終え夕日の祈り出来る幸　栄連　本間美津子
太陽の真下で旨い握り飯　栄連　細田　陽充
陽光の一縷を貰うアイバンク　栄連　細田　陽充
お日様の顔見て決める農作業　栄連　本田ひで坊
太陽の申し子しかと生きようよ　栄連　坊野　留吉
太陽の恵み野菜に花に木に　栄連　松平登志栄
同じ朝二度とはないと手を合わせ　栄連　真栄城久枝
太陽の味だ天まで伸ぶ棚田　栄連　宮崎衣美子
寝そべって見る太陽のおおらかさ　栄連　南川　光男
銀婚の今でも君は太陽だ　栄連　村野　洋志
いやされる君の笑顔は太陽だ　栄連　森　里美
昼過ぎの日差しに私溶けてゆく　栄連　森野　政利
人が好き太陽が好き手を繋ぐ　栄連　森末　律子
旭日に父の偉大を顧みる　栄連　武者　駿造
太陽がしっぺ返しの温暖化　栄連　南びわっ子
お日様のパワーいただく深呼吸　栄連　山内　昭治
お日様と肩組みしてるお母さん　栄連　横山きのこ
夕焼けを掴むと明日の覇気が燃え　栄連　吉村久仁雄
太陽の匂いも入れて梅漬ける　栄連　横井　和幸
太陽の恵みの一滴(しずく)サクランボ　栄連　吉成　重之
ふたつとない太陽ふたりとないあなた　栄連　横地　保彦
太陽がまだ睨んでるけどさあビール　栄連　吉成　重之
ヒマワリよ右へならえと太陽が　栄連　山下　修身
直球で行けと頭上の太陽が　栄連　山下　修身
昨夜のこと知るや知らずや日は昇る　栄連　山下　修身
太陽をつかまえた僕の左の手　栄連　（無名）
太陽がスケッチブックに沈むかな　栄連　（無名）
太陽に目鼻かいたら母になり　栄連　岩田　三和
太陽と共に遊んだ緑の日　栄連　牛渡たみ子
朝日浴び今日の命に手を合わす　栄連　伯耆　薫
鶴折った兜折ったに日が暮れぬ　栄連　伯耆　薫
大きな夕日丸のみしたい帰り道　栄連　伯耆　薫
塾の前子等待つ間日が落ちる　栄連　伯耆　薫
水平線絵の具ポトリと初日の出　栄連　伯耆　薫
「太陽に向って吠えろ」だとMGMのライオンではあるめーし　栄連　浜崎　慶嗣
250年太陽照らす道しるべ　栄連　河口　世詞
太陽を割ってはビルの背がのびる　栄連　阿部　巻彌
太陽を背に伸びていく偽証罪　栄連　阿部　巻彌
またあした来るよと夕陽落ちてゆく　栄連　西岡　信彦
太陽を撮ってこようと鬼やんま　栄連　山本　忠良
落葉を追って還らぬ竹とんぼ　栄連　山本　忠良
句読点打てば明日の陽が登る　栄連　山本　忠良
太陽が育む命愛おしむ　桜木連　田中　政徳
太陽を背にして走る子供たち　桜木連　鷲尾　モモ
日時計を頼りに遊ぶ　夏休み　桜木連　大和　澄順
太陽に近づく自我を脱ぎながら　桜木連　玄武洞
太陽をひとつ殺してビルが建つ　桜木連　玄武洞
太陽の下で小さな意地を張る　桜木連　玄武洞
真っ向に陽が落ちて往く大往生　桜木連　玄武洞

寅一〇

てのひらに一期一会の陽を受ける　桜木連　玄　武　洞
太陽も想定外の温暖化　桜木連　平松　刹那
私はあなたの太陽だった筈　桜木連　松浪ふみ子
太陽に言いつけちゃうぞいじめなど　桜木連　松浪ふみ子
太陽が大好きなのは富士山だ　桜木連　山本忠次郎
赤富士と対話太陽沈まない　桜木連　諏訪　夕香
太陽の廻り舞台で生きている　桜木連　大橋あきる
太陽の向こうで飢餓の海を抱く　桜木連　大橋あきる
太陽も明日の糧に沈みます　桜木連　福童　美子
太陽を見てから廻す洗濯機　桜木連　宇都宮福男
陽が沈む影もゆっくり床に就く　桜木連　緒方　正堂
陽の恵み蟻の命も隔てない　桜木連　平　蔵　柊
核廃棄する日西から日が昇る　桜木連　平　蔵　柊
昇る陽も沈む日も母手を合わす　桜木連　佐瀬　昌柳
美しい日本に太陽が足らぬ　桜木連　玄　武　洞
墓石も僕も温めてくれる陽だ　桜木連　玄　武　洞
リタイアをして太陽と対話する　桜木連　玄　武　洞
核保有して太陽に笑われる　桜木連　佐瀬　昌柳
川柳が好き川柳翁は太陽だ　桜木連　有福　功
太陽に好かれ二人の潔い恋　桜木連　有福　功
太陽の子分地球が言うお世辞　桜木連　有福　功
太陽がどっと弾ける水シャワー　桜木連　山口　早苗
落日のビルから下ろすダンボール　桜木連　山口　早苗
輪切りした夕陽が沈む処方箋　桜木連　山口　早苗
音もなく夕陽が沈む試験管　桜木連　山口　早苗
太陽がまだある中と結ばれる　桜木連　山口　早苗
落日に浮く屋台骨父の首　桜木連　山口　早苗
太陽と契る自在なダリの髭　桜木連　山口　早苗
太陽にパワーをもらうサングラス　桜木連　高矢芳加津
火の国に生まれ御天道様と呼ぶ　桜木連　山本　誠子
半島で歪んだ太陽が吠える　桜木連　玄　武　洞
陽光を両手に浴びた春の朝　桜木連　藤田　國男
太陽と木綿の恋へ布団干す　桜木連　福島　久子
最強の太陽だからまぶしいよ　桜木連　山本忠次郎
太陽と今日も仲良く野良仕事　桜木連　寺尾　麦人
八月の太陽永遠に隠すまい　桜木連　寺尾　麦人
太陽に透かすと欲が溶けていく　桜木連　寺尾　麦人
太陽を恋し人魚が陸に棲む　桜木連　寺尾　麦人
太陽に負けず元気な河童の子　桜木連　寺尾たかし
太陽を大きく描いた子の未来　桜木連　雨宮　五郎
太陽と真っ直ぐ歩く地図を買う　桜木連　雨宮　五郎
太陽に向い五感の窓を開け　桜木連　米原みちこ
太陽に雄叫びあげた少年期　桜木連　大庭　堅司
太陽の子供の数が先細り　桜木連　森田美代子
太陽に挑む男のヘルメット　桜木連　末田笑放子
太陽に問えば炎になれと言う　桜木連　末田笑放子
太陽の恵みに農夫手を合わす　桜木連　末田笑放子
万国の太陽だから温かい　桜木連　窪川さつき
自画像に陽を当て過去の陰を消す　桜木連　三浦　進
春の陽を浴びて生命が動き出す　桜木連　秋山　勝
子の画布に太陽とママ飽かずいる　桜木連　楠根はるえ

寅二

お日様がいっつもボクについて来る　桜木連　楠根はるえ
夕陽映える窓辺は老母の指定席　桜木連　楠根はるえ
子の脱いだシャツから汗と火の臭い　桜木連　久生　豊子
太陽を神と崇めて土に生き　桜木連　久生　豊子
太陽と踊ろ浅草カーニバル　桜木連　千葉　絹子
太陽の沈むあたりへ立泳ぎ　桜木連　千葉　絹子
母さんの笑顔子供の太陽だ　桜木連　安藤美奈子
太陽に夜があるから嘘を言う　桜木連　鈴木　民生
太陽が地球に叫ぶ黄信号　桜木連　木村　恒久
お日様が黄色くなった二日酔い　桜木連　尾崎いちお
太陽と共存している日章旗　桜木連　山下　万博
太陽の森へ苗木をしかと植え　桜木連　小林　昭男
絵心を誘う夕陽の沈む海　桜木連　小林　昭男
太陽は人も草木もみんな好き　桜木連　披田野志摩子
太陽が居ないニートのカレンダー　桜木連　石井　正俊
太陽に農夫が合わす時刻表　桜木連　石井　正俊
太陽も一緒に歌う千の風　桜木連　大滝十九八
太陽になって介護を決意する　桜木連　大滝十九八
太陽と帳尻合わぬ無神論　桜木連　竹田　光柳
太陽の恵みをとざす無菌室　桜木連　竹田　光柳
太陽に挑む多感な夏の海　桜木連　野中いち子
太陽に隠れて難民船が着く　桜木連　野中いち子
太陽に吠えているのは父の骨　桜木連　野中いち子
太陽の真下泣いたり笑ったり　桜木連　山口ヨシヱ
疑わず太陽いっぱい食べて来た　桜木連　山口ヨシヱ
太陽は子供のヘソが好きらしい　桜木連　三橋　絢子
お日様の匂い母から来る便り　桜木連　田中五十鈴
ふる里の陽差しに座る亡母の部屋　桜木連　嵯峨里かほる
ストレスでしょうか夕日が燃えている　桜木連　嵯峨里かほる
太陽が見てないときに武器運ぶ　桜木連　吉野　綾子
しんじ湖に太陽沈む神の国　桜木連　渡部　修三
二軍での汗太陽に励まされ　桜木連　岡田かすみ
太陽に心預けて遍路杖　桜木連　岡田かすみ
喜怒哀楽たぐり寄せてる日向ぼこ　桜木連　往住　花子
胡麻の実がぽんとはじける夏日和　桜木連　往住　花子
柔らかい陽ざしで本音脱がされる　桜木連　往住　花子
バカなことお辞めなさいと陽は真上　桜木連　楠山東石子
日照権奪われ痩せた柿となる　桜木連　岡田　幾
仕送りの西陽の部屋にデカイ夢　桜木連　岡田　幾
ヨイトマケ今なら母へ日焼け止め　桜木連　成島　静枝
雨上がり虹を攫った千の風　桜木連　成島　静枝
陽は西に喜怒哀楽の人生譜　桜木連　渡辺　喜子
太陽は愛聖人を産み落とす　桜木連　江尻　麦秋
太陽が女性だなんてうっふっふ　桜木連　高見澤直美
太陽の沈む雄姿に愛がある　桜木連　米子　達男
太陽に日本の財布覗かれる　桜木連　中沢ゆり子
お日様を讃えています千の風　桜木連　廣瀬其三男
太陽が大好きという麦畑　桜木連　藤ノ木辰三郎
木漏れ日へ前頭葉が動き出す　桜木連　日高　賀邁
太陽をたっぷり入れる春障子　桜木連　伊津野貴子
日光浴たまにはしたい深海魚　桜木連　吉野　綾子

寅二三

日に目覚め夕日に感謝して眠る　桜木連　西森　絹子
藁塚の陽の移ろいも印象派　桜木連　高田　淳子
風紋の襞をまさぐる夕陽の掌　桜木連　高田　淳子
今日のことみんな許して日が沈む　桜木連　伊津野膺一
まっ白なページ希望の陽が昇る　桜木連　伊津　善子
沈む陽は明日を約束してねむる　桜木連　佐藤　洋子
日向ぼこ猫とわたしの小宇宙　桜木連　下地　安子
太陽のエキスたわわな秋を噛む　桜木連　上村　健司
いい事があったな夕陽燃えている　桜木連　中野スミ子
シミ恐れ　日焼け止め塗り　日光浴　桜木連　片瀬　絵美
帰り道太陽背にし伸びをする　桜木連　小笠原遥香
太陽も充電中か梅雨の空　桜木連　小笠原遥香
向日葵と、お日様お互い、にらめっこ　桜木連　渡辺だいちん
抜かり無く照らす陽へ向く腐れ顔　桜木連　岩渕　川球
裏切りも愛のひとつとテルボウズ　桜木連　郡りんぺい
太陽も雪がいないと寂しいよ　桜木連　箒臺風ざっぷ～
燦々と　降りそそぐ恵み　永遠に　桜木連　エコ家はじめ
いつまでも明るく灯るいのちの実　桜木連　五島太陽光
網膜に翠の日輪夏深し　桜木連　小池　海獣
肌に射す陽射しのシャワー浴びる朝　桜木連　津島みんみん
自己紹介明るく暖かく良い性格　桜木連　青木　豆
お腹の子ママの人生光らせる　桜木連　林　りん
天指して　悪く言うヤツ　見てみたい　桜木連　和田ゆうちゃん
あぁ太陽さんあなたを見るたび目がいたいよう　桜木連　るな　まま
夜の貴方面影はなく陽を浴びる　桜木連　海野たまこ
太陽はすべての花の母となり　桜木連　三重の芽美
我が家の太陽達が水遊び　桜木連　山下　母
やわはだにそそぐ太陽ほのかに染まる　桜木連　古屋　葉瑠
太陽に手を伸ばす子の頬に頬　桜木連　高橋クリアウィング
うたた寝の祖母の背中に　陽のかおり　桜木連　武井　慧
太陽に隠れて生きる花もあり　桜木連　高間　里佳
太陽に背中を押され　外回り　桜木連　岡田奈津子
太陽を頬に残した夏休み　桜木連　トッチィ～
一筋の道を照らして夕日落ち　桜木連　阿部闘句朗
太陽におはようおやすみ言うわが子　桜木連　市橋夕凪人
勝ち負けを越えて日差しが温かい　桜木連　ハゲチャリ王子
太陽に吠えよニートよつまずくな　桜木連　無　病　息災
夏至の朝無事太陽がちと嬉し　桜木連　石神井シジュウカラ
毎日のパワーをくれるご来光　桜木連　まこペンギン
太陽に掌かざす日曜日　桜木連　内藤　乃柚
その笑顔　私を照らす太陽だ　桜木連　野端　VERYBLUE
太陽の焼け付く想いが皮膚めくる　桜木連　岩田　和音
もはや死語？「おてんと様が見ているよ」　桜木連　三つ子の魂百まで
太陽がでしゃばりすぎで水不足　桜木連　大源　武範
太陽を毎朝拝む母の顔　桜木連　江角エスとも
お日さまを祖母が真っ赤に塗り直す　桜木連　尾塚めぐみ
春の日のぬくもり思う腕の中　桜木連　松永きさら
角氷締めたる掌にて陽へ変わる　桜木連　加藤　鬼灯
眠たいよ　陽射しを浴びて一眠り　桜木連　坂本　一平
太陽に焼いて欲しいわこの脂肪　桜木連　川見メタボ
キャンバスに青と緑と太陽と　桜木連　鎌田　彩香

寅 三

太陽と同じぶんだけ笑ってる　桜木連
ひがのぼる今日も1日頑張れる　桜木連
朝陽見て心の雲が晴れ渡る　桜木連
太陽が生きる希望をくれたんだ　桜木連
お日さんと渾名もらった学芸会　新葉連
寛大な妻太陽のように見え　新葉連
太陽に恋してみたい今朝の空　新葉連
陽の匂い籠もる布団で父の夢　新葉連
ストレスを日向に干しているベンチ　新葉連
トンネルを抜け太陽に風景画　新葉連
人種差も国境線も無い朝日　新葉連
日焼け止め水着に安心させる浜　新葉連
太陽と握手をしたい梅雨晴れ間　新葉連
お日様はいつも笑顔で描いてある　新葉連
太陽に背中を押されて歩き出す　新葉連
核と飢餓北の太陽登れない　新葉連
太陽にはしゃいで走るランドセル　新葉連
子供らに天動説の陽が落ちる　新葉連
太陽の匂いがこもる里の膳　新葉連
箱庭の隅に太陽愛をくれ　新葉連
無神論宗旨替えするご来光　新葉連
太陽は地球の病知っている　新葉連
四季生きる日向日陰を選びながら　新葉連
美しい夕陽にわたし無になれる　新葉連
太陽の恵みへ背く核軍備　新葉連
今日の思い知ってか赤い日が沈む　新葉連
お天とうさまが見ているから泣かぬ　新葉連
太陽がギラギラ燃えるペアルック　新葉連
太陽に詫びて地球を介護する　新葉連
太陽の下の日の丸美しい　新葉連
日輪の恵みを疎む温暖化　新葉連
お日様の仰る通り起きて寝る　新葉連
お陽さまがにっこり笑う花畑　新葉連
安静の窓も太陽見捨てない　新葉連
日焼けどめ塗って太陽好きと言う　新葉連
太陽がときどき狂う野外劇　新葉連
太陽がねらう無防備なわたし　新葉連
太陽が少し大きくなる帰郷　新葉連
太陽も泣きたい時があるだろう　新葉連
泣き笑い太陽系のすみっこで　新葉連
太陽がなければできる陰もなし　新葉連
飽きもせずまた太陽を食べている　新葉連
恋も陽もただ一人だけ一つだけ　新葉連
嘘ついた身に太陽が眩しすぎ　新葉連
年金に朝日の当る家が無い　新葉連
燃えている恋の太陽沈まない　新葉連
太陽のような君だが太りすぎ　新葉連
太陽と笑う平和なにぎり飯　新葉連
太陽の孤独を海が慰める　新葉連
太陽を真中希望溢れ出る　新葉連
太陽にだってあるのさ泣き黒子　新葉連

吉村かをり
田中真佑美
田中真佑美
浅川　鷹新
寺尾たかし
児玉　幸子
児玉　幸子
児玉　幸子
岡　さくら
長井　柳虎
出口セツ子
津乃鐘　秀
赤松　重信
大倉久子
大倉久子
佐竹　明
清水　照一
鈴木　久樽
丸山　孔平
丸山　孔平
高橋　敬三
藤岡ヒデコ
高城じゅんこ
小原　正路
岳　明
太田百合子
高見澤直美
延寿庵野霸
中野沙千古
白神　晋市
西澤　司郎
伊塚　紅白
福田　綾美
加藤ゆみ子
佐藤　隆治
吉本　君枝
吉本　君枝
高尾　育樹
岡本　恵
岡本　恵
こはらとしこ
中野　六助
中野　六助
大森みち子
中島　宏子
もみの志郎
寺門　迷仏
平井　翔子
河合笑久慕
瀬戸れい子
中村　雀鳴

寅一四

太陽が眩暈をしてるクレヨン画　新葉連　中村　雀鳴
太陽に妬くやさしすぎますあなた　新葉連　前田　伸江
ありがとう海へ帰って行く夕陽　新葉連　前田　洋子
眼裏に太陽だった頃の妻　新葉連　大野たけお
太陽と握手した手が火傷する　新葉連　大野たけお
腕白の太陽がいる保育園　新葉連　望月　弘
戦争を知らない子らが太陽だ　新葉連　望月　弘
太陽もおんなの下着に目を背け　新葉連　七沢登志尾
太陽に背を向けているネット族　新葉連　竹中　正幸
太陽につく嘘だけは許せない　新葉連　竹中　正幸
バス停の椅子に夕陽が一休み　新葉連　辻　弘司
太陽が昇ると何かしたくなる　新葉連　塚田　素文
太陽と母のでっかい握り飯　新葉連　塚田　素文
太陽に腰を押されて田圃這う　新葉連　塚田　素文
太陽だって夏は昼寝でいいんだよ　新葉連　浅田　春郎
太陽が泣いています休耕田　新葉連　浅田　春郎
太陽を自負する妻の薄い紅　新葉連　植村　和一
太陽がゆっくり怒る温暖化　新葉連　倉田　文夫
お日様の匂いをさせて子が帰る　新葉連　森古留里子
太陽を残して塾へかくれんぼ　新葉連　西村　幸芳
太陽の恵みをミレー見逃さず　新葉連　楠根はるえ
太陽に近付きたくてジャンプする　新葉連　増田　敏夫
太陽を黒く描く子の心病む　新葉連　田村常三郎
太陽も家賃に入れる南向き　新葉連　田村常三郎
太陽も照らしたくない国もある　新葉連　遠藤　忠太
その事も天道様はお見通し　新葉連　利光　正行
少年の恋に夕陽が沈めない　新葉連　川島　五貫
太陽に世辞を使ってみたくなる　新葉連　鷲澤　昭月
陽を拝む母のすがたを見て育つ　新葉連　表　洋子
太陽のエールで育つ杉の苗　新葉連　表　洋子
太陽に感謝傘寿は鍬と立つ　新葉連　越村　智彦
太陽の恵を食べる露地野菜　新葉連　野村　賢悟
やるだけをやった夕日が美しい　新葉連　海老池　洋
コンパスの芯になりきるお日いさま　新葉連　河合　保雄
太陽を抱いて坂道下りてくる　新葉連　河合　保雄
手術成功水平線に陽が昇る　新葉連　都わ　すれ
太陽に背を向けているカメラマン　新葉連　田中　吐夢
太陽の励ましだろうレインボー　新葉連　古谷龍太郎
太陽がありゴキブリもいて吾もいる　新葉連　鈴木　英峰
三世代太陽役はやはり妻　新葉連　堀　正和
太陽の母はニートを作らない　新葉連　酒井日出子
太陽と指切り明日も生きられる　新葉連　西村　正紘
仲直りして消えていくサンセット　新葉連　山口　昭悦
太陽と歩いた泣いた喜んだ　新葉連　中江　碩子
太陽と身の上話しています　新葉連　本間千代子
退社する門へ夕陽のまだ残り　新葉連　桒田かずえ
ソーラーパネル背負ったままで休めない　新葉連　山本野次馬
太陽へかざす両手はまだ赤い　新葉連　山本野次馬
妻の留守太陽の匂い仕舞い込む　新葉連　白神　晋市
太陽はやっぱり女だと思う　新葉連　堀　正和
里帰り小手をかざして陽を測る　新葉連　本間　流

寅一五

太陽の死角にポツリ泣き黒子　新葉連　白神　晋市
太陽が君のよろいを脱がすはず　新葉連　小春　日和
太陽が障子に落とす水墨画　新葉連　橋立　英樹
太陽に手加減願う温暖化　新葉連　矢田しげを
朝日から元気をもらい畑仕事　新葉連　矢田しげを
畑仕事赤い夕日で腰伸ばす　新葉連　矢田しげを
飽食も飢餓も太陽見て回り　新葉連　朱　雀門
太陽が黙って照らすテロ現場　新葉連　朱　雀門
太陽を見たくてかけるサングラス　新葉連　橋立　英樹
太陽の恵み忘れる温暖地　新葉連　小春　日和
太陽が庭にたくさん咲いていた　新葉連　美高　けい
太陽を向かぬ向日葵だってある　新葉連　橋立　英樹
太陽が人を疑わずに昇る　新葉連　橋立　英樹
過去消して朝日の中で生き直す　新葉連　真田　義子
沈まない陽が欲しかった若き日々　新葉連　橋立　英樹
太陽と戦う夏の甲子園　新葉連　岡部　英夫
太陽を退屈させて休耕田　新葉連　岡部　英夫
お日さまのわがまま聞いてあげて夏　新葉連　かぐや姫
ストレスを溶かしてくれる陽の光　新葉連　小西　章雄
影二つひとつになって赤く染め　新葉連　水品　団石
お日さまをよく見るために目を閉じる　新葉連　橋立　英樹
陽を浴びて若い水着の曲線美　新葉連　岡部　英夫
落日へ満ち足りた日の影法師　新葉連　小西　章雄
太陽が少年の恋あつく染め　新葉連　我汝　兄弟
陽盛りを避けて少女の日は終り　新葉連　矢田しげを
陽は差すと信じて生きた母子家庭　新葉連　矢田しげを
太陽は平等でないかも知れぬ　新葉連　美高　けい
お日様があったかいから昼寝する　新葉連　橋立　英樹
太陽は弁当箱に隠れてた　新葉連　小西　章雄
太陽を味方につけて路地トマト　新葉連　小西　章雄
母さんは太陽だった温かった　新葉連　小西　章雄
こんがりと人間を焼く陽の光り　新葉連　橋立　英樹
日に勝った鼠の嫁に勝つ姑　新葉連　柳　修
太陽を迎えに今朝の靴を履く　新葉連　水品　団石
男一匹天道説を信じよう　新葉連　かぐや姫
太陽の後ろ姿を見てみたい　新葉連　さくらつきこ
失敗を責めず静かに陽は昇り　新葉連　牛渡たみ子
太陽に恥じる戦火がまだ続き　新葉連　牛渡たみ子
自然食して太陽の子に育ち　青空連　秋山　了三
太陽へ向けて拳は固めない　青空連　伊藤三十六
太陽の留守を狙ってする戦　青空連　伊藤三十六
太陽が笑うと地球儀が回る　青空連　潮田　春雄
少年の掌に太陽を掴み取る　青空連　船橋　豊
少子化でねずみの嫁に陽が当る　青空連　増田　幸一
救援にＪＡＰＡＮの文字と日章旗　青空連　増田　幸一
生きようと思い直したサンセット　青空連　熊谷　岳朗
太陽も一つ命も一つなり　青空連　西澤　利男
太陽に感謝忘れて水不足　青空連　木崎　栄昇
太陽の慈悲で涙がすぐ乾く　青空連　永井　静佳
太陽の歌に自分史はげまされ　青空連　鈴木セツ子
西日差す四畳半から世帯持ち　青空連

寅一天八

太陽を溶かして神が染める海　青空連　福島　久子
太陽が味方で恐いものが無い　青空連　木崎　栄昇
恙なく老いて初日へする感謝　青空連　椛本　愛子
陽が昇る海岸線で抱くロマン　青空連　木崎　栄昇
太陽と思えた頃もあった妻　青空連　木崎　栄昇
ホスピスの窓辺夕陽と語り合い　青空連　中沖　明人
千枚田千の太陽受け止める　青空連　井上　文子
太陽に叛いて核を抱いている　青空連　井上　文子
太陽は飛鳥美人に眩しすぎ　つくば連　油谷　克己
太陽の子に戻したい都会っ子　つくば連　大貫　友康
お日様がバカンスしてる長い梅雨　つくば連　葛西　清
太陽のレプリカだけは作れない　つくば連　佐瀬　貴子
天辺に太陽を置く神を置く　つくば連　佐瀬　貴子
太陽のジャッジ臆するものはない　つくば連　佐瀬　貴子
太陽は光熱費など取りません　つくば連　妹尾　安子
太陽が付くと値が張る分譲地　つくば連　妹尾　安子
太陽に元気をもらうスニーカー　つくば連　吉道　航太郎
お日さまについて生きます二十四時　つくば連　照沼　智
お日さまは真上ニートがまだ起きぬ　つくば連　岩田　明子
夕焼の匂いと帰る野良の母　中の島連　広瀬　恭子
夕焼に恋して脱げぬ野良のシャツ　中の島連　広瀬　恭子
日時計でおやつ広げる野良三時　中の島連　広瀬　恭子
夕焼けをポッケに入れて野良の母　中の島連　広瀬　恭子
夕焼けと指切りげんまんカラスの子　中の島連　広瀬　恭子
過労死の手帳へ黒い陽が昇る　中の島連　広瀬　恭子
陽を吸わせ介護の嫁の干し布団　中の島連　広瀬　恭子
太陽が時間ですよと窓のぞく　中の島連　片山　百合子
呱呱の声もう太陽を握りしめ　中の島連　引木　詠路
難聴へ来て太陽がノックする　中の島連　引木　詠路
太陽と青雲語る視野無限　中の島連　引木　詠路
母さんの背なで太陽笑ってる　中の島連　引木　詠路
太陽もはにかむ海に咲くビキニ　中の島連　木村　規子
夕焼けに染まり寄り添うシルエット　中の島連　木村　規子
陽だまりに熟女が寄って姦しい　中の島連　木村　規子
母の掌に明日を約束する太陽　中の島連　斎藤　治枝
万歩計昇る朝日に背を押され　中の島連　出店　春陽
お絵描きの太陽笑う子の未来　中の島連　塩谷　久美
大漁旗朝日に靡き父帰る　中の島連　加茂　鉄也
太陽にYOSAKOI弾む北の初夏　中の島連　加茂　鉄也
太陽もビキニまぶしい浜開き　中の島連　加茂　鉄也
お日さまを追って鉢植えまた前へ　葛西連　磯野　純子
炎天下焼け石に水の日やけ止め　葛西連　磯野　純子
太陽の偉大さを知る蟻の群れ　葛西連　野中　孝子
夕焼けにあした又ねと散って行く　青葉連　阿部　みつ
子が描くお日様いつも笑ってる　青葉連　五十嵐　桂子
太陽に叱られそうな人のエゴ　青葉連　阿部　章一
太陽よ年金記録照らしてよ　青葉連　池田　洋子
峡谷を染める夕日に神宿る　青葉連　岩渕　たか
太陽のめぐみ地球へ無限大　青葉連　大久　力也
農耕の血を太陽に刺激され　青葉連　大槻　和気子
太陽に今日も詫びてる休耕田　青葉連　大森　昭二

寅一七

太陽にソッポ向かれてサングラス　青葉連　大森　昭二
太陽へ文句言ってる二日酔い　青葉連　小野　寺眞
落日へバイバイをして児が帰り　青葉連　小野　寺眞
太陽にお返ししたい贈りもの　青葉連　阿部　章一
お日様が笑った世界も笑った　青葉連　阿部　峰子
子の発つ日朝陽に祈る母の影　青葉連　磯松きよし
太陽系をひと回りしてくる散歩　青葉連　あきたじゅん
残照へ明日の幸せ予約する　青葉連　あきたじゅん
陽だまりへ中性脂肪かしこまる　青葉連　あきたじゅん
お日様が真ん中にある子供の絵　青葉連　葛西　妙子
新しいいのち湧きでる陽が昇る　青葉連　北れ　い子
陽のあたる坂で野心を捨てました　青葉連　片岡　鶴子
太陽をいっぱい詰めてあるカバン　青葉連　片岡　鶴子
太陽になろうなろうと目玉焼き　青葉連　鎌田　京子
夏目雅子の日傘が今も畳めない　青葉連　鎌田　京子
あったかいひとになるためさんるーむ　青葉連　鎌田　京子
お日様が休耕田も照らしてる　青葉連　佐藤　岩男
太陽の恵みもらったお米だよ　青葉連　佐藤　郁子
餓鬼道の網の中にも光さす　青葉連　佐々木詔子
レギュラーになれぬ背中に西日さす　青葉連　佐々木詔子
世の平和日向の臭い抱いて寝る　青葉連　佐々木妙子
お日様を浴びて今日もランニング　青葉連　斉藤慎一郎
太陽の黒点懺悔かもしれぬ　青葉連　斎藤　玲香
万物を生かして太陽一人ぼち　青葉連　佐藤　安子
ごはんですよ夕日をおいて子等帰る　青葉連　佐藤　安子
太陽を讃えて踊るカーニバル　青葉連　鳩原　弘
夕焼けに暖簾明日の夢を見る　青葉連　蜂谷とき子
嫁に来て太陽になり母を看る　青葉連　橋浦　厚子
休田に温い太陽ありました　青葉連　平間　三流
嫁姑太陽二つ暑すぎる　青葉連　福士　繁蔵
太陽が迎えてくれた空の旅　青葉連　福士　繁蔵
さりげなく太陽のようそこに居て　青葉連　藤　利加
一粒の種に太陽味方する　青葉連　星澤　英子
梅を干すたっぷりの陽を刻みつけ　青葉連　邊見　貞子
太陽と仲よしこよし米作り　青葉連　中沢ゆり子
深海魚だって太陽見たかろう　青葉連　中沢ゆり子
太陽に言い訳できぬ休耕田　青葉連　中島　稔
白日に少年の球本塁打　青葉連　長崎　恵子
ブランコの親子にそよぐ日の笑顔　青葉連　山崎　浩栄
まるごとの夕陽を貰う旅の駅　青葉連　宮本　順子
節くれた手お陽様と種を蒔く　青葉連　薄井　秀女
太陽に申訳なくサングラス　青葉連　薄井　秀女
お陽様はいつ出来たの子に問われ　青葉連　薄井　秀女
夏の陽の黒く落ちてく原爆忌　青葉連　薄井　秀女
太陽が西から昇った　鏡　青葉連　薄井　秀女
元気いいぼくの母さん太陽だ　青葉連　高木　彬裕
太陽と言われ色気はついて来ず　新堀連　岩崎　能江
太陽を素手で掴んだコンクール　レモンの会連　了味　茶助

亥八月二十五日開
平成万句合物句高一千五百九拾二員

文一　二十七まひ板行

課題「太陽」

脇屋川柳・斎藤大雄
大野風柳・礒野いさむ　合評
尾藤三柳・大川幸太郎

五千参百八拾九員

奨励賞

太陽がまだ洗濯物の中にいる　栄　連　本田しおん
太陽と涙のぶたい甲子園　本部連　前原　未来
太陽はみんなの涙見てきてる　駒込連　増田　俊輔
太陽は心の中のお友達　駒込連　金子　凌
太陽がうれしいように光ってる　駒込連　篠瀬　雅広
太陽に守られながら生きる人　駒込連　西村　優希
なつやすみママとおひさまおこりんぼ　栄　連　かしわやかいと
太陽に深呼吸する君が好き　栄　連　仁平井麻衣
太陽の影はいつでも向こうがわ　白鳳連　河井　靖子
太陽はぼくらをつつむだい家族　本部連　渡久池莉沙

ジュニア2点句

エネルギーみんなにあげるたいようだ　蔵前連　さかいひろき
告白になぜか太陽邪魔になり　栄　連　仁平井麻衣
太陽になぐさめてもらう青春さ　本部連　金城　和泉
夕日見てそろそろ時間帰ろうか　蔵前連　稲葉　貴大

ジュニア1点句

外でのんびり　日干しする　蔵前連　楠戸　智也
音楽に合わせてたらす太陽だ　蔵前連　長谷川みゆき
砂はまで夕日をずっとながめたい　蔵前連　塩川　愛佳
太陽はみんなをつけるストーカー　蔵前連　城山
たいようはいつもげんきにわらってる　蔵前連　日下むねたか
たいようはへやのなかでもまぶしいよ　蔵前連　さいとう要
おひさまははなのえいようすごいんだ　蔵前連　はま名りゅうのすけ
たいようにあたるとあついあついよね　蔵前連　いいずみれな
たいようがとってもあついぜ　かきごおり　蔵前連　きむうんす
たいようはまぶしくってねあつすぎる　蔵前連　ひ口あやか
太陽よてらしてくれてありがとう　蔵前連　山ざきりょう太
たいようはいつも元気であかるいよ　蔵前連　しお川たかなり
たいようはみんながやけるなつだから　蔵前連　そめやあうり
かくれんぼくもとなかよしあそんでる　蔵前連　大湊らいむ
まど開けて朝の太陽元気でる　蔵前連　鈴木　ゆう

文二

お日さまはくもりの時はかくれんぼ	蔵前連	ふく池りょうすけ
太陽はぼくらの町のほう石だ	蔵前連	深山　慎二
たいようはいつまでいきてられるのか	蔵前連	大湊みんと
太陽はぼくの大きいお友だち	蔵前連	川上　創
お日様に早く起きろと起された	蔵前連	川上　創
太陽は世界を照らす王様だ	蔵前連	麦島　陽太
太陽は七つの星のおにいさん	蔵前連	いずみなおき
太陽は何でも知てるものしりだ	蔵前連	関　直子
太陽のひかりをあびて生きている	蔵前連	泉　直希
太陽は地球が死んでもひかってる	蔵前連	泉　直希
太陽は母さんよりもおそろしい	蔵前連	しのうたくま
太陽はほう石箱の明かりだよ	蔵前連	関　直子
太陽はまっかにもえるほうせきだ	蔵前連	引場　碧
太陽はとても大きい元気玉	蔵前連	西村　春菜
気持ちいい朝のはじまりは　太陽だ	蔵前連	西村　春菜
太陽は遠足まえにたよられる	蔵前連	片田　好
つゆのとき太陽ちょっと　ひとやすみ	蔵前連	片田　好
太陽と入道雲で夏本番	蔵前連	後藤　祐香
太陽のピカーンとひかる　真夏の日	蔵前連	松川　碧
真夏の日今日は太陽の給料日	蔵前連	山崎　渓太
ともだちと太陽を見る泣きやんだ	蔵前連	吉藤　実里
ポカポカの太陽ずっとあびたいな	蔵前連	渡邉　未佳
おうごんに光るお日さま金メダル	蔵前連	萩原由太郎
太陽の下にはいつも僕らいる	ウェブ連	清野　航平
太陽に君の笑顔を重ね見る	ウェブ連	三好　沙知
お日様だピカピカ光る太陽は	金龍連	星野　栞
太陽はぼくと一しょ友達だ	金龍連	筧　竜太朗
しずみこむ夕日と母はそっくりだ	金龍連	翁　陽
太陽の下で輝く楽器たち	金龍連	服部　奈緒
太陽に水をかけたらどうなるの	金龍連	小川絵里子
運動会一等賞は太陽だ	金龍連	河西　留奈
太陽よ天の光をふりそそげ	金龍連	永嶋　誠
太陽よ君より光る笑顔あり	金龍連	夏山ひかる
猫たちが夏のひざしで眠ってる	金龍連	原　佑輔
太陽は自然と森をつくってる	金龍連	中西　泉鈴
心にも太陽あればいつも晴れ	金龍連	鵜澤　七美
ピッカピカ一年生も太陽も	駒込連	斉藤　未来
太陽が背中を焦がす団子坂	駒込連	佐竹　伊織
夏の朝みんなが起きれば陽ものぼる	駒込連	関口　光毅
つらい時いつも見ている太陽が	駒込連	増田　俊輔
太陽は光と影をつくり出す	駒込連	佐藤　清哉
夏が来た太陽ひかって照らしてる	駒込連	高林　佳祐
太陽に一度でいいからさわりたい	駒込連	大城　望美
太陽はみんなの宝大切に	駒込連	篠瀬　雅広

文三

太陽は生命を照らす源だ　駒込連　上田　希栄
さわやかな朝日にさわぐ小鳥たち　駒込連　三浦　綾香
夕焼けの淡いオレンジ美しい　駒込連　三浦　綾香
その笑顔僕の心の太陽だ　駒込連　仁佐瀬宇宙
赤とんぼ夕日に向けて消えていく　駒込連　中條　伸昭
金魚鉢に飾りをつける日の光　駒込連　村山　雄大
友人と日が沈むまで語り合う　駒込連　牛島　一真
テッカテカ夏のライバル紫外線　駒込連　木内　徹也
日が昇る朝日の光目に染みる　駒込連　松浦　祥英
あの場所で一度は見たいサンセット　駒込連　皆川　聖路
日の光母の代わりに僕起こす　駒込連　皆川　聖路
夕焼けはなぜか悲しい声がする　駒込連　鈴木　修平
太陽も人間照らすのもう飽きた　駒込連　田原　毅
まぶしいなあの子はまるで太陽だ　駒込連　西村　優希
太陽が笑うときには花笑う　駒込連　西村　優希
太陽のような笑顔の君が好き　駒込連　栄将　太郎
マイカーの屋根はやっぱりサンルーフ　駒込連　石塚　俊司
おひさまはきっとおちたくないんだよ　栄　連　かしわやかいと
これからは君の時代だ光発電　栄　連　小原　千明
赤とんぼ夕日をあびて光り出す　栄　連　田中　万葉
ボク思う家の太陽お母さん　栄　連　戸田　和慧
母さんの明るい笑顔太陽だ　栄　連　諸隈　幸宏
雲の間から　覗く光に　夢託す　桜木連　佐伯はる香
光ある　世界に夢と　希望あり　桜木連　佐伯はる香
宙に舞う　ボールの影と　重なる陽　桜木連　安部真沙美
太陽は　空に輝く　笑顔かな　桜木連　川滝　悟司
太陽とひがくれるまで鬼ごっこ　白鳳連　金川　倫大
太陽と重い荷物で汗にじむ　白鳳連　今〇　美央
ギラギラと心をうばう太陽よ　白鳳連　大野　良美
夕焼けで染まって光る秋の海　白鳳連　金子　光稀
太陽にきれいに焼けた夏の肌　白鳳連　金子　光稀
天道虫お天道様へ帰ってく　白鳳連　大竹　出
太陽の熱が宇宙へ帰らない　白鳳連　佐藤　全
からっぽの水筒下げて炎天下　白鳳連　渡邊　和史
太陽とみんなで遊ぶかげふみだ　白鳳連　加地　遥
木漏れ日をえさと思ってくる金魚　白鳳連　加地　遥
太陽もきっと悲しむ温暖化　白鳳連　加地　遥
太陽が照れば広がる青い空　白鳳連　榊原　蓮菜
太陽の視線が痛いジリジリと　白鳳連　白岩つかさ
梅雨入りの次の日太陽ギーラギラ　白鳳連　鈴木友紀乃

文四

太陽に負けるなぼくのど根性　白鳳連　佐々木勇気
太陽が照らしてくれるぼくの道　白鳳連　佐々木勇気
太陽はいつもぼくの上にいる　白鳳連　椎名孝史郎
太陽の暑さにまけず校外学習　白鳳連　清水大希
太陽がまぶしすぎるよ徹夜明け　白鳳連　深谷祐希
太陽はありがたいけど水不足　白鳳連　伊藤奈々子
太陽の願いは一つ平和のみ　白鳳連　小川はるか
太陽は世界を照らす明かりだよ　白鳳連　元永志穂
太陽のおかげで青春ひかってる　白鳳連　元永志穂
太陽に冷たい気持ちあるのかな　白鳳連　吉田鈴花
太陽は見れば見るほど目がくらむ　白鳳連　加部翔太
新年のパワーをもらう初日の出　白鳳連　黒澤貴
太陽は景色を作る芸術家　白鳳連　中原有博
人間を明るくつつむ太陽で　白鳳連　荻野紀美
日光浴日焼けをしたらいたいよう　白鳳連　小林友恵
太陽は冬に嬉し夏むなし　白鳳連　田辺春音
太陽に照らされ光る一円玉　白鳳連　松崎恵利那
太陽とにじが一緒に笑ってる　白鳳連　松下瑛里夏
太陽に命もらって生きる花　白鳳連　宇田川誠
雨上がり君が作った虹の橋　白鳳連　奥田光一
イカロスよ飛べよ飛び行け太陽へ　白鳳連　清水喬紀
光ってるあの太陽は俺の夢　白鳳連　水上拓哉
進級し太陽が少し近くなり　白鳳連　渡辺竜の介
日に当たり植物みたいに伸びたい背　白鳳連　田中里実
夏期講習照る太陽が恨めしい　白鳳連　角田莉奈
かき氷溶かす太陽にくらしい　白鳳連　林史恵
太陽がくれた日焼けはプレゼント　白鳳連　松井恵未
太陽が私の道を照らしてる　白鳳連　松井恵未
友達と家族は私の太陽だ　白鳳連　山田美緒
太陽も朝から晩まで部活動　白鳳連　山本楓
太陽が私を一番知っている　白鳳連　小野塚大稀
体育中わずかな日陰オアシスだ　白鳳連　小野塚大稀
汗落ちる烈日の日の体育館　白鳳連　柴田大吾
昼食後春の日ざしで眠くなる　白鳳連　大黒晴之
日の光洗濯物もうれしそう　白鳳連　森谷宥紀
オレンジの夕日に染まる友のほほ　白鳳連　五十嵐幸輝
太陽は僕らの地球のリーダーだ　白鳳連　福田海里
おひさまがぼくを元気にしてくれる　白鳳連　柘植匠美
爆撃の落ちる国にも照っている　白鳳連　安積尊
太陽が沈むと共に消える友　白鳳連

文五

太陽はソーラーカーのお友達　白鳳連　アハマドダニッシュ雄太
真夏日のプールは熱い温泉だ　白鳳連　アハマドダニッシュ雄太
ギラギラと照りつけ視界狭くなる　白鳳連　佐藤　徹弥
太陽は真夏の浜の風物詩　白鳳連　佐藤　徹弥
太陽と一緒に食べよう朝ごはん　白鳳連　中原　大彰
暖かい日向に集まり無駄話　白鳳連　梁　拓夢
離れても同じ太陽見てるから　白鳳連　秋富　知佳
太陽の光で育つ野菜たち　白鳳連　景山　珠美
輝いて笑顔を造る希望の陽　白鳳連　田中　佑佳
日の光雪をとかして春を呼ぶ　白鳳連　古澤　有希
あかるいな　太陽さんは　いい笑顔　千束連　平本　竜樹
太陽の　したでぼくたち　いきている　千束連　碓井　直樹
太陽に　てらされすぎて　こげちゃった　千束連　小長井夢香
温だん化　進んでいるよ　太陽さん　千束連　三田　華鈴
たいようは　まぶしいけれど　きれいだな　千束連　高山　大河
太陽がぼくらを呼んで光ってる　本部連　渡久池莉沙
太陽も恋人はいるお月さま　本部連　渡久池莉沙
太陽の大しんゆうはわくせいだ　本部連　渡久池莉沙
太陽に向かって走る犯人が　本部連　饒波真理奈
太陽だせみが出てきて大合唱　本部連　志喜屋りえ
太陽と共にさわごう夏休み　本部連　金城　和泉
太陽も人とおなじでいつか死ぬ　本部連　上運天五月
太陽は少しさみしい曇り空　漣　連　森山　裕貴
太陽はニコニコニコニコつかれない　漣　連　戸澤　莉子
太陽をながめて遠い母の顔　漣　連　真鍋　有咲
梅雨だけど夏の太陽やってくる　漣　連　小池　直輝
おとうとがたいようみたいわらってる　漣　連　松丸　由奈
太陽で焼いたステーキ食べたいな　漣　連　浦元江里奈